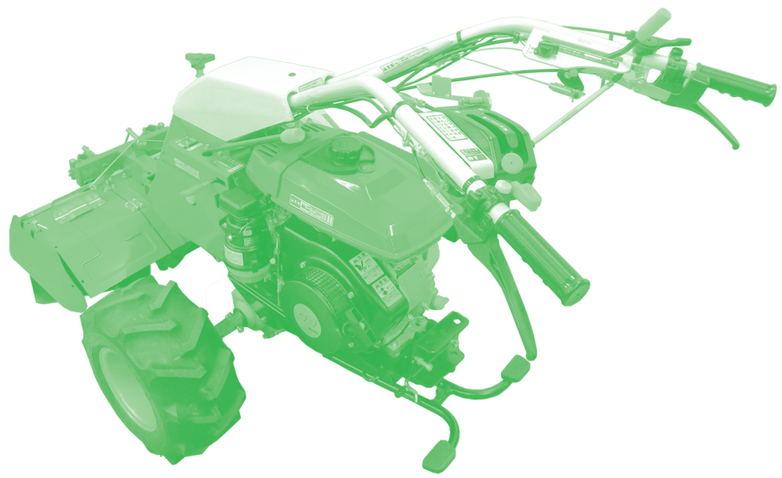
うね立て専用機

取扱説明書

MM116B



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

エアコンの簡易点検実施について

フロン排出抑制法が施行され、エアコン装備（キャビン仕様）の場合、「簡易点検の実施」、「記録の保管」を実施することが義務化されました。
詳しくは、巻末の「フロン排出抑制法によるお客様点検」と「簡易点検記録表」をお読みください。

機体銘板とエンジン番号

機体銘板とエンジンには、アフターサービスをお受けになるときなどに必要な情報が記載されています。
機体銘板は、フレーム右側面（図 1）に貼り付けられています。
エンジン番号は、機体右側のエンジンクランクケース（図 1）に打刻されています。

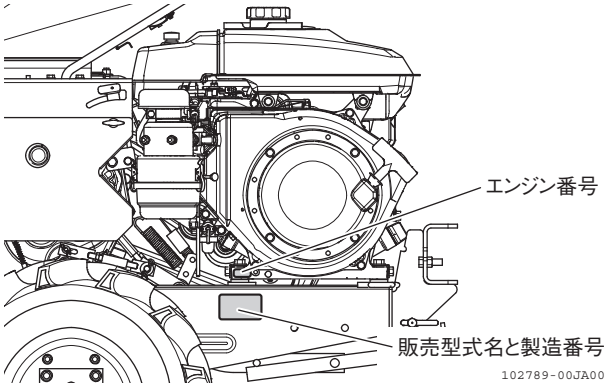


図 1 機体銘板とエンジン番号

販売型式名､製造番号などを記入してください

本製品の製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難の被害にあった場合などに必要となりますので、各銘板に記載されている販売型式名や製造番号などをつぎの表に記入してください。

販売型式名：	アタッチメント型式名および製造番号：
区分：	
製造番号：	
エンジン型式：	
エンジン番号：	

※ ご購入の製品によっては、該当しない項目もあります。
※ アフターサービス、保証については、54ページをご参照ください。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、本機をお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになったあとも、この取扱説明書を製品に近接し、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、必ずこの取扱説明書および、同梱されている「安全に作業をするために」を本製品と共にお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、すみやかに当社の特販店、または JA にご注文ください。
- 安全に対する項目については、同梱されている「安全に作業をするために」に記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。
- この取扱説明書の 1 ページの記入欄に本機の製造番号、エンジンの番号などを記入してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載漏れなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

- **このうね立て専用機は、路上（公道）走行できません。**
  このうね立て専用機は、ほ場内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けておりません。ほ場まで移動される場合は、トラック等に載せて運搬してください。
- **このうね立て専用機は、日本国内での使用を想定しています。**
  このうね立て専用機は、日本国内のみでの使用を想定しており、海外に輸出したり、海外で使用することは想定しておりません。従って、当社の品質保証の適用範囲外となります。

説明記号の見かた

⚠危険　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。

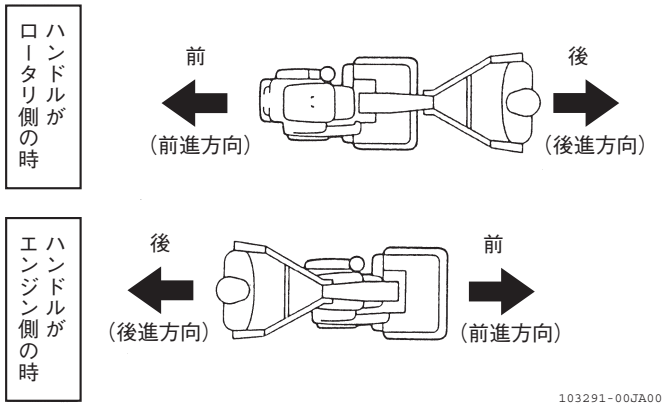
⚠注意　その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。

[重要]　誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]　作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

方向について

本機の前後は、右図のように作業者から見た方向で表します。
本文中の、前進・後進についても、作業者から見た方向で表します。



本製品の使用目的について

本製品は、耕うん後のほ場での内盛りうね立て、土寄せの管理作業用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などはしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。
（詳細は、保証書をご覧ください。）

本製品の使用条件について

本製品は、耕うん後のほ場での内盛りうね立て、土寄せの管理作業用の作業機として、設計・製造されています。
表 1 の条件で使用することにより本来の性能を発揮します。

表 1 使用条件

温度	−5 ℃ ～ 40 ℃
高度	1500 m以下
傾斜度	5 度(9 %)以下

型式と仕様について

本製品には、つぎの仕様があります。

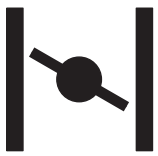
表 2 型式と車輪の仕様

型式	車輪
MM116B	ワイドタイヤ

運転操作のシンボルマーク

うね立て専用機を安全に能率よく操作、作業していただくために、つぎのシンボルマークをうね立て専用機および取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。

表 3 シンボルマーク

	ガソリン燃料		チョーク		エンジン回転高速
	エンジン回転低速				

目次

総目次

機体銘板とエンジン番号 1

販売型式名、製造番号などを記入してください..... 1

はじめに..... 2

1章　必ずお読みください 9

安全銘板..... 9
安全銘板の貼り付け位置.....9
安全銘板の手入れについて.....10

2章　運転のしかた..... 11

各部のはたらきと使いかた..... 11
運転操作部.....11
エンジン部.....16
その他.....17
運転前の点検 18
緊急時の停止方法について.....19
点検のしかた 19
エンジンの始動と停止 20
始動のしかた 20
エンジンの停止のしかた.....21
運転操作..... 21
発進のしかた 21
変速のしかた 22
旋回のしかた 23
停車のしかた 23
駐車のしかた 24

3章　作業のしかた..... 25

作業前の準備 25
ハンドル高さの調節のしかた 25
走行変速レバー・耕うん変速レバーの
位置の変えかた 25
ハンドルターン（回動）のしかた 25
車輪幅の調節のしかた.....28
クイックうね立て機構および
かるがるリフト機構の使いかた
（ロータリーフレーム回動）.....29
作業機の取り付けかた.....30
ロータリーカバーの調節のしかた 31

4章　お手入れのしかた..... 32

作業後の手入れについて..... 32
作業後の手入れのしかた.....32
各部の注油箇所 32
点検・整備のしかた..... 34
定期点検・整備の時期について 34
定期点検一覧表 35
燃料の点検・補給・排出のしかた.....36
オイルの点検・交換のしかた 37
エアクリーナーの洗浄のしかた 40
燃料コシ器エレメントの掃除のしかた.....40
主クラッチレバーの点検・調整のしかた.....41
ベルトガイドの点検・調整のしかた.....42
サイドクラッチレバーの
点検・調整のしかた.....42
ハンドル上下調節レバーの
点検・調整のしかた.....43
かるがるリフトベルトの
点検・調整のしかた.....43
緊急停止ワイヤーの点検・調整のしかた.....44
駐車ブレーキレバーの点検のしかた.....44
クイックうね立てレバーの
点検・調整のしかた.....44
クイックうね立て規制ボルトの
調整のしかた 45
増締めするところ.....45
点火プラグの点検・掃除・交換のしかた.....46
タイヤの空気圧の調整のしかた 47
燃料パイプ・電気配線の点検のしかた.....47
不調診断のしかた 48

5章　保管のしかた..... 50

保管するときは..... 50
特に長期保管するときは
（1カ月以上）..... 50
保管のしかた 50

6章　輸送のしかた..... 51

トラックへの積み・降ろしのしかた..... 51

7章　仕様..... 52

主要諸元..... 52

8章　廃棄物の処理について 53

廃棄をするときは 53
本機の廃棄 53
廃油の処理 53
ホース類の処理 53

9章　サービスと保証について 54

保証書は大切に保管してください 54
アフターサービスをお受けになるときは 54

10章 索引 55

11章 部品リスト（部品早見表） 56

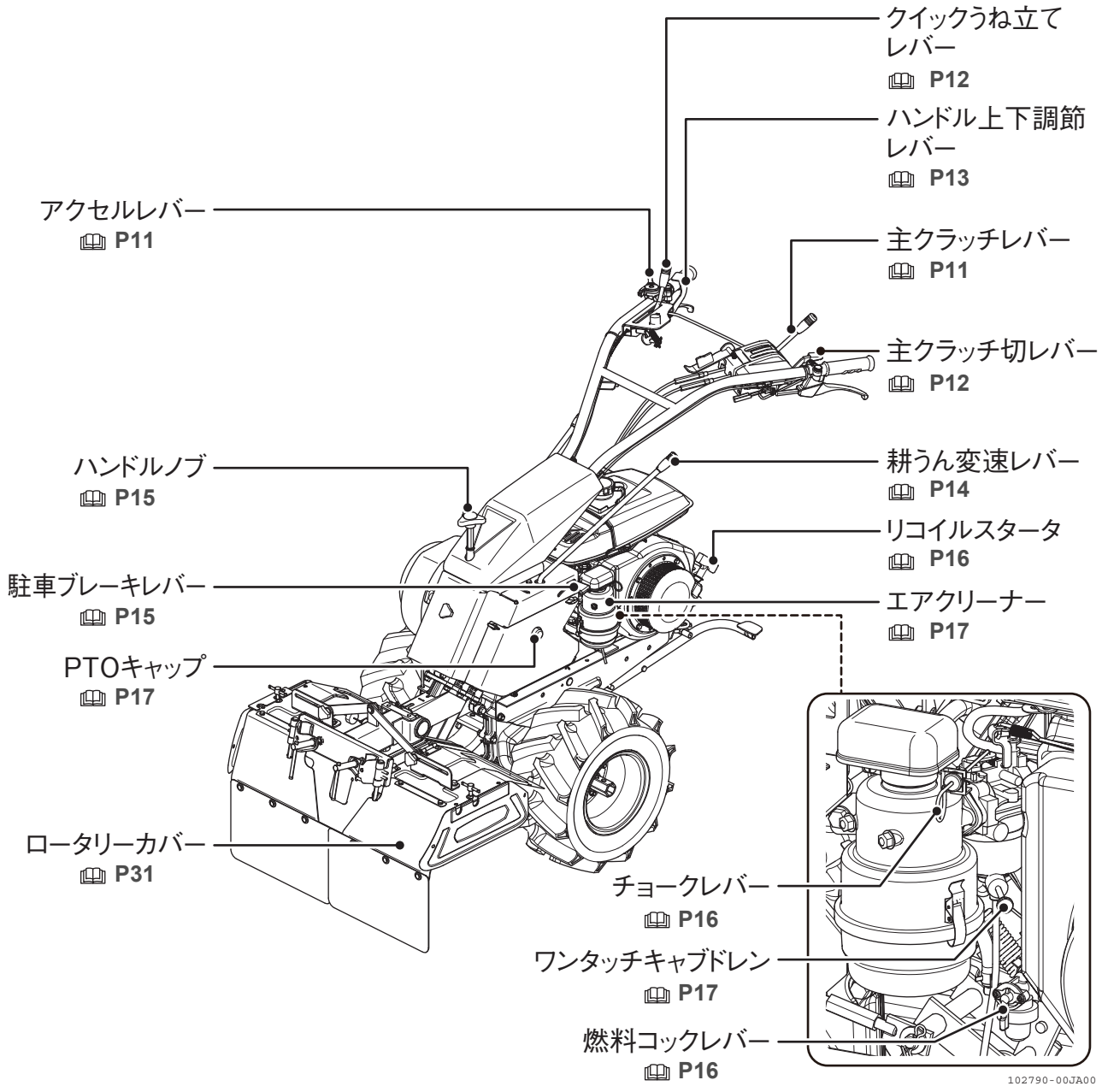
主要消耗部品 56

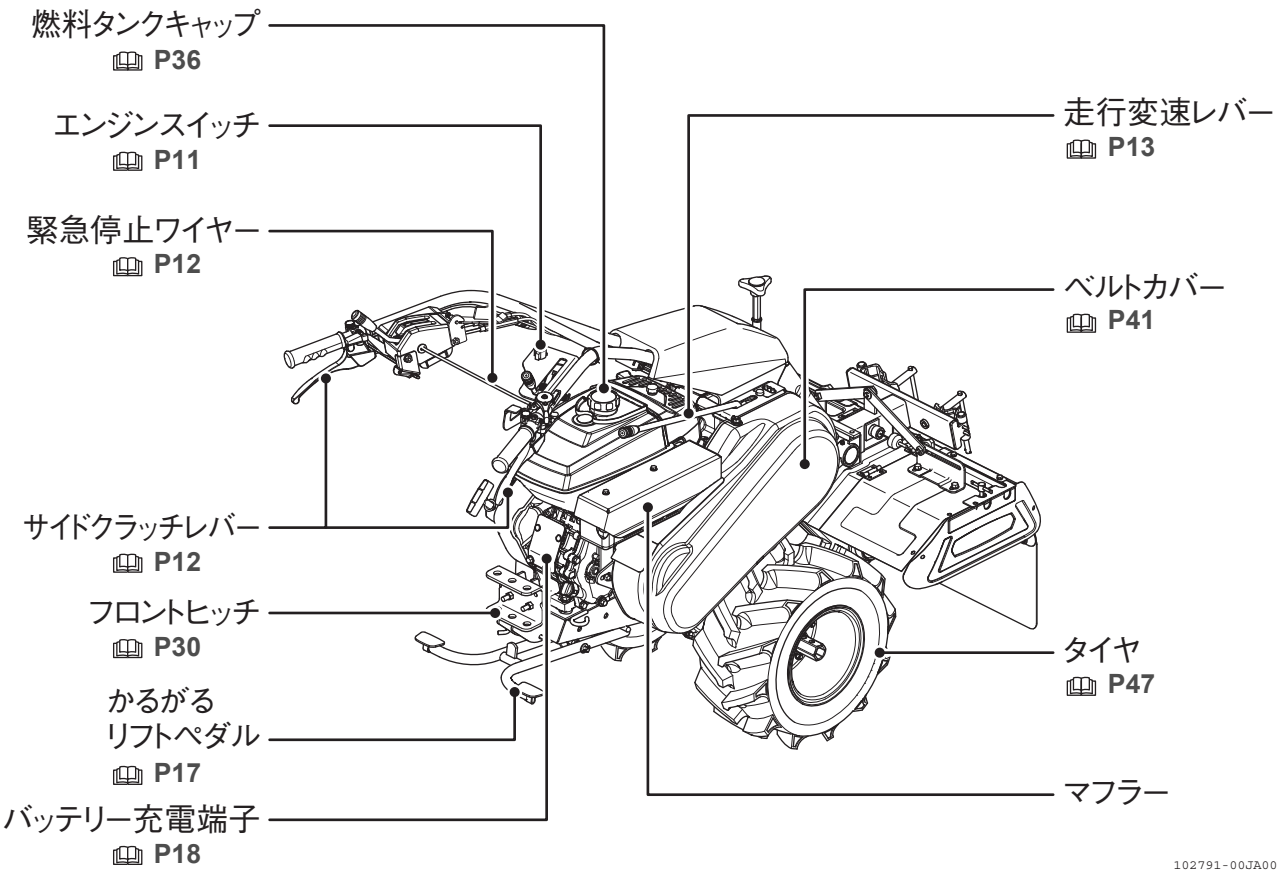
12章 用語解説 57

イラスト目次

外観

※ハンドルは逆位置の状態です。

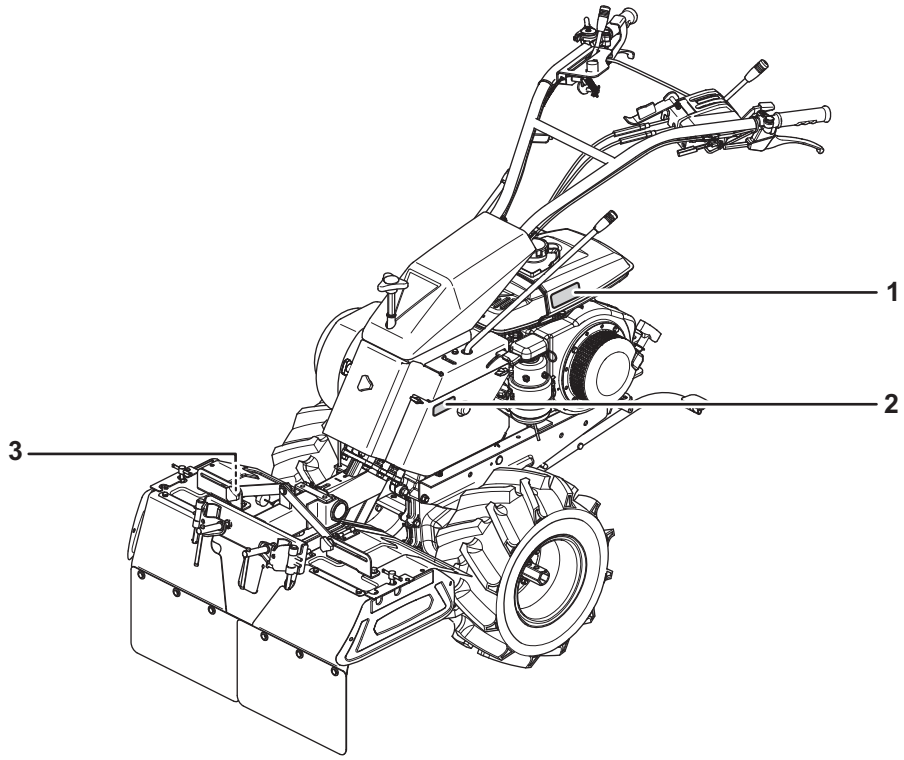



燃料タンクキャップ
P36
エンジンスイッチ
P11
緊急停止ワイヤー
P12
サイドクラッチレバー
P12
フロントヒッチ
P30
かるがる
リフトペダル
P17
バッテリー充電端子
P18
走行変速レバー
P13
ベルトカバー
P41
タイヤ
P47
マフラー
102791-00JA00

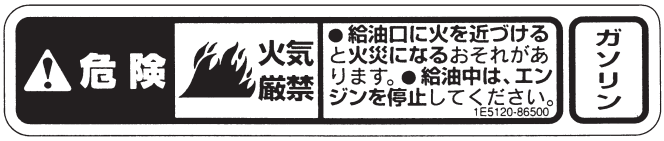
安全銘板

安全銘板の貼り付け位置

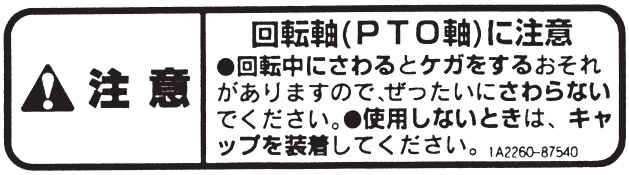
安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板には、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。必ず作業を始める前に読んでください。常に汚れや破損のないように保ち、もし破損、紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



1. 9169 0000 080 危険(ガソリン)

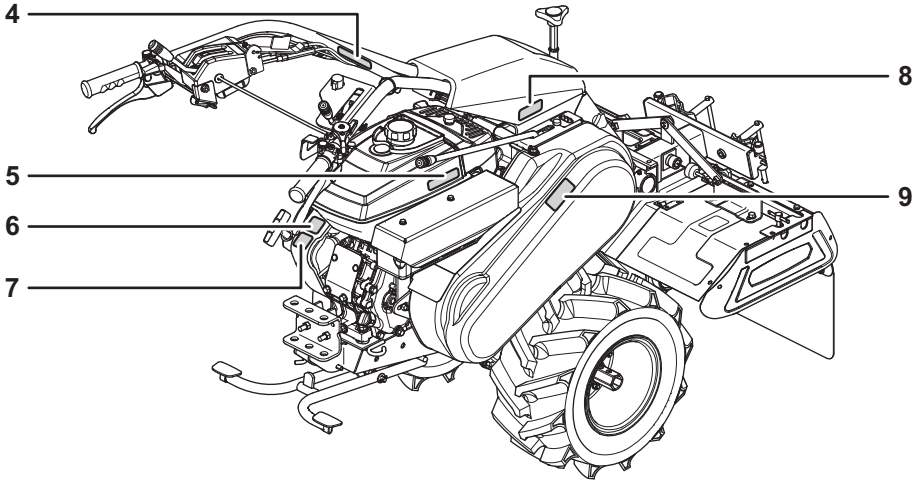


2. 9169 0000 070 注意(PTO回転

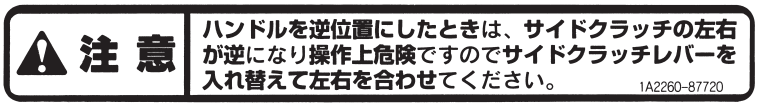


3. 9169 0000 050 警告(ロータリ回転)





4. 9169 0000 090 注意(Sクラッチ入れ替え)



5. 9169 0000 060 注意(マフラー高温)



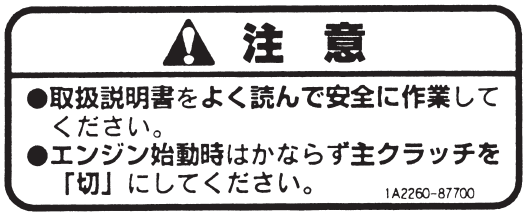
6. 9169 0000 100 注意(エンジン停止)



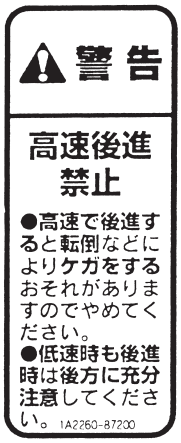
7. 9169 0000 110 警告(排ガス)



8. 9169 0000 020 注意(取扱い)



9. 9169 0000 030 警告(高速バック)



安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
  安全銘板はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご注文ください。

各部のはたらきと使いかた

運転操作部

ハンドル部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

エンジンスイッチ

エンジンを始動、停止するときに使用します。

■ エンジン始動時

エンジンスイッチを「入（ON）」位置にすると、エンジンが始動できる状態になります。

■ エンジン停止時

エンジンスイッチを「切（OFF）」位置にすると、エンジンが停止します。

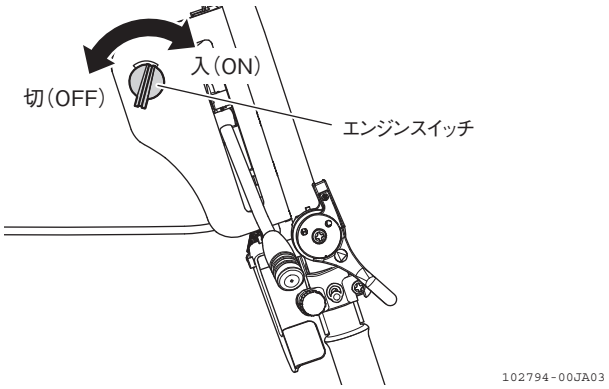


図 2-1 エンジンスイッチ

[参考]

- 緊急時には、エンジンスイッチを「切（OFF）」位置にし、エンジンを停止させてください。
- エンジンスイッチが「切（OFF）」側では、エンジンを始動できません。

アクセルレバー

エンジン回転を調整するときに使用します。

「L（🐢）」（低速）側…エンジン回転が遅くなります。

「H（🐇）」（高速）側…エンジン回転が速くなります。

「●」位置…エンジン始動時の位置です。

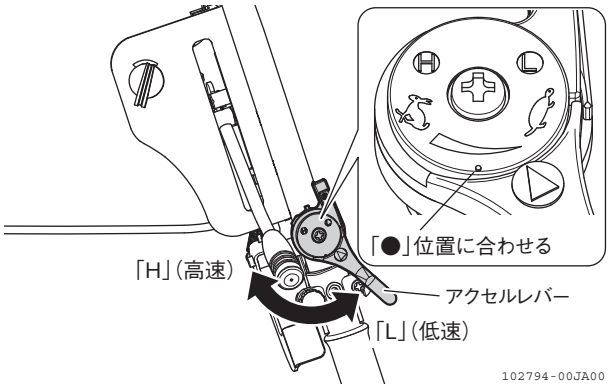


図 2-2 アクセルレバー

主クラッチレバー

エンジンからの動力を伝えたり、切ったりするときに使用します。

「高」側……主クラッチがつながり、動力が高速で伝わります。

「低」側……主クラッチがつながり、動力が低速で伝わります。

「切」位置…レバーを手前に引いた位置です。動力が切れます。

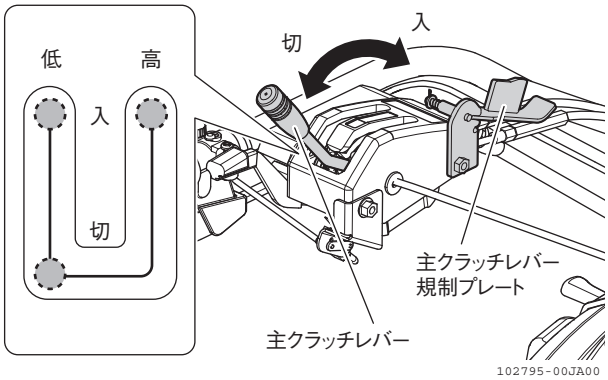


図 2-3 主クラッチレバー

■ 主クラッチレバー規制プレート

ハンドル正位置のときは、規制プレートをセット位置にしてください。主クラッチレバーが「高」側に入らないように規制します。

ハンドル逆位置のときは、規制プレートを解除位置にします。

主クラッチ切レバー

ハンドルを握ったまま、主クラッチレバーを「切」位置にするときに使用します。

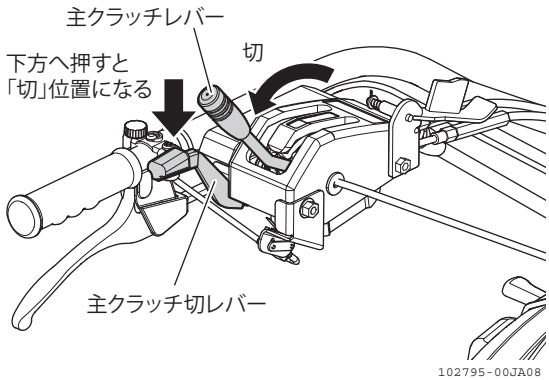


図 2-4 主クラッチ切レバー

主クラッチレバーが「入」位置のときに、主クラッチ切レバーを下方へ押すと、主クラッチレバーは「切」位置になります。

サイドクラッチレバー

旋回するときに使用します。

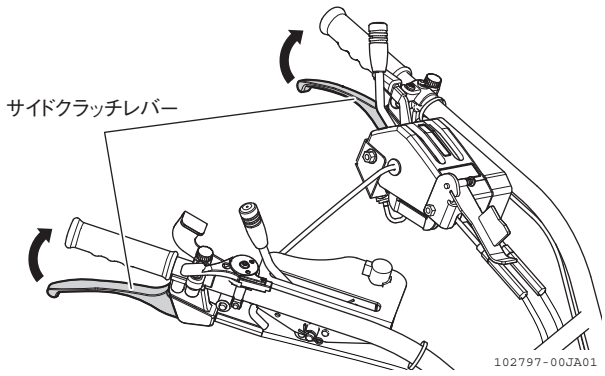


図 2-5 サイドクラッチレバー

- 右に旋回するとき…右側のサイドクラッチレバーを握ります。
- 左に旋回するとき…左側のサイドクラッチレバーを握ります。

[重要]

ハンドルを逆位置にしたときは、サイドクラッチレバーの左右を入れ替えてください。

緊急停止ワイヤー

緊急停止ワイヤーを押すまたは引くと主クラッチが切れ、停止します。

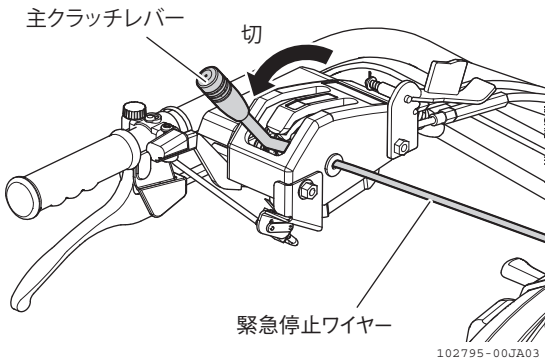


図 2-6 緊急停止ワイヤー

クイックうね立てレバー

うね立て作業開始時に使用します。

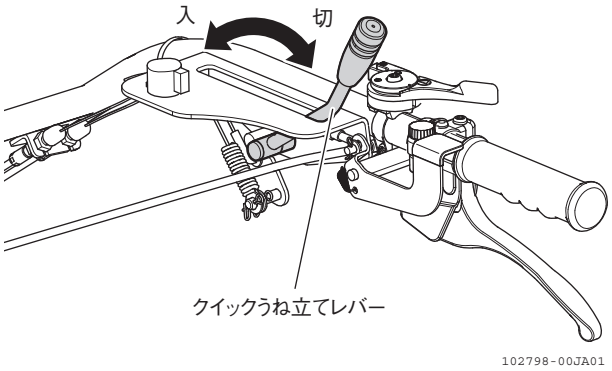


図 2-7 クイックうね立てレバー

うね立て開始時にレバーを「入」位置にすると、すぐにうねができます。

ハンドル上下調節レバー

作業者の体格や作業に合わせて、ハンドルを使いやすい高さに調節するときに使用します。

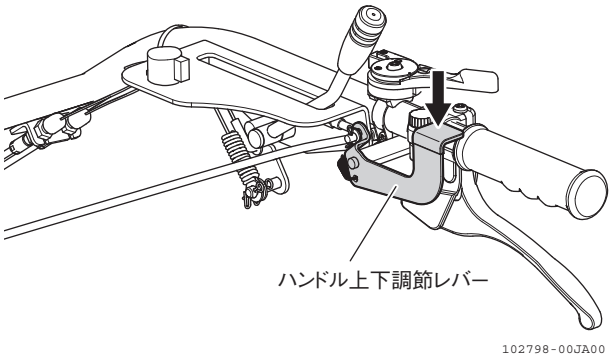


図 2-8 ハンドル上下調節レバー

ハンドルは上下6 段階に調節できます。
レバーを押す…ハンドルを上下に動かせます。
レバーを離す…ハンドルが固定されます。

[参考]

ハンドル上下調節レバーを下げたまま、ハンドルを上下に動かし、適切な位置でレバーを離すと、その位置で固定されます。

■ ハンドルの上下調節範囲

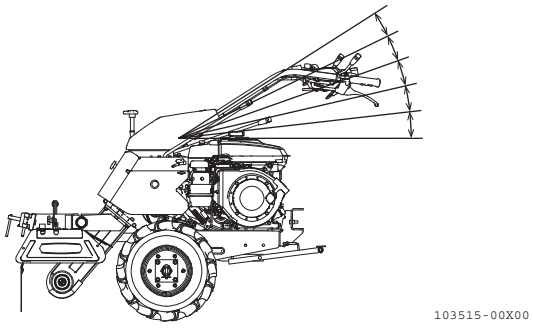


図 2-9 ハンドルの上下調節範囲

ハンドル高さは上下6段階に調節できます。

走行変速レバー

「前進」「後進」の切り替えに使用します。
主クラッチレバーとの組み合わせで、ハンドル逆位置では、前進6段・後進4段、ハンドル正位置では前進3段・後進1段の変速ができます。

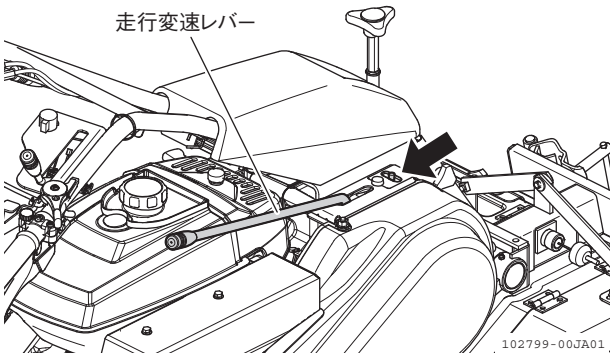


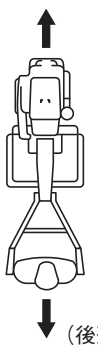
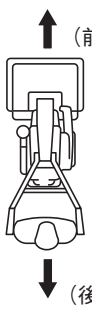
図 2-10 走行変速レバー

- **ハンドル逆位置の場合**
  走行変速レバー規制プレート（白メッキ）を取り付けます。（25ページ参照）
- **ハンドル正位置の場合**
  走行変速レバー規制プレート（黒メッキ）を取り付けます。（25ページ参照）

[重要]

- 走行変速レバーは必ず主クラッチレバーを「切」位置にしてから操作してください。
- 走行変速レバーの位置を規制するために「規制プレート」が取り付けられています。ハンドル位置に合わせて規制プレートを必ず使用してください。

表 2-1 ハンドル側から見た位置

ハンドル正位置	ハンドル逆位置
	
後（後進方向）	前（前進方向） 後（後進方向）

■ ハンドル逆位置時の変速位置

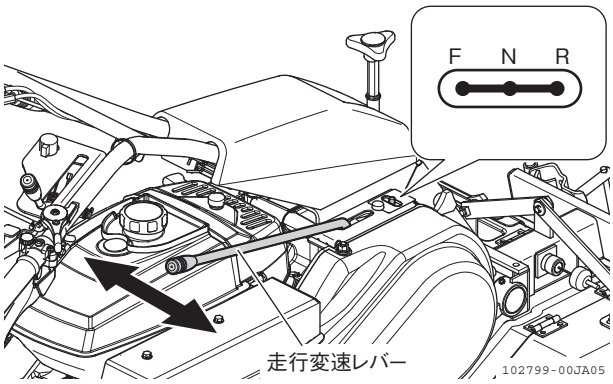


図 2-11 ハンドル逆位置時の変速位置

■ ハンドル正位置時の変速位置

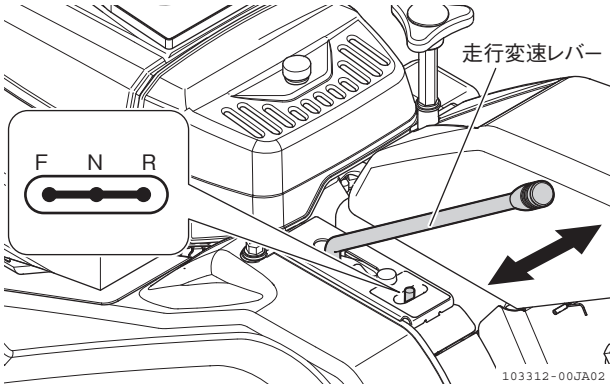
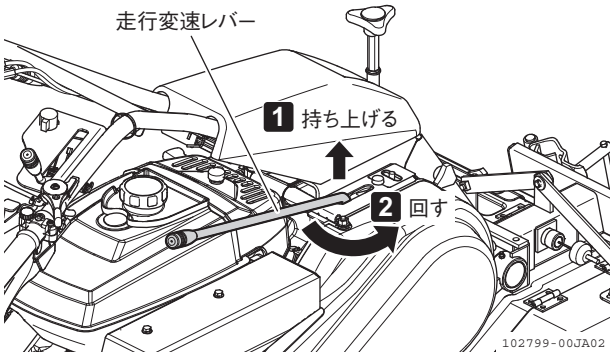


図 2-12 ハンドル正位置時の変速位置

■ 走行変速レバー位置の変更のしかた



※イラストはハンドル逆位置です。

図 2-13 走行変速レバー位置の変更のしかた

耕うん変速レバー

作業に応じてロータリー回転速度を 2 段階に変えることができます。

■ ハンドル逆位置時の変速位置

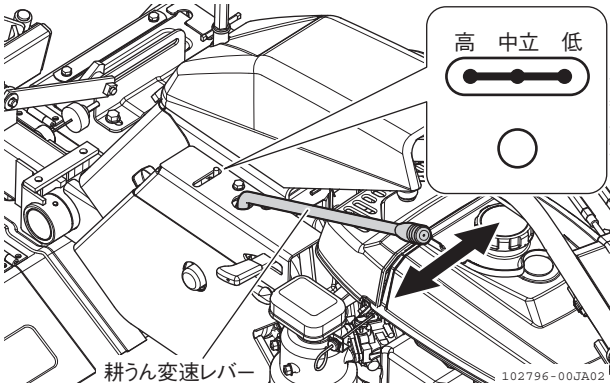


図 2-14 ハンドル逆位置時の変速位置

■ ハンドル正位置時の変速位置

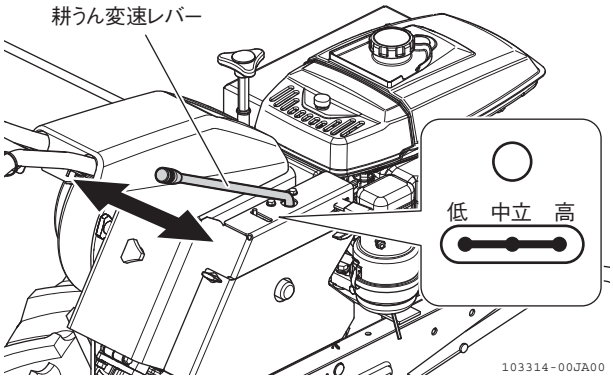
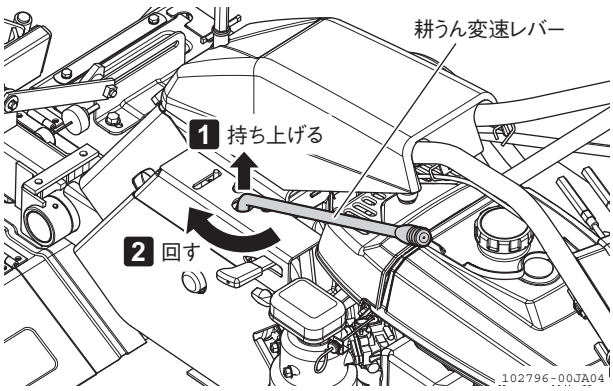


図 2-15 ハンドル正位置時の変速位置

■ 耕うん変速レバー位置の変更のしかた



※イラストはハンドル逆位置です。

図 2-16 耕うん変速レバー位置の変更のしかた

駐車ブレーキレバー

うね立て専用機を駐車するときに使用します。

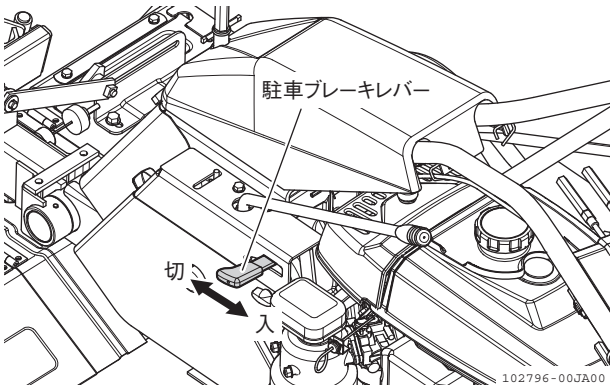


図 2-17 駐車ブレーキレバー

「入」位置……駐車ブレーキがかかります。
「切」位置……駐車ブレーキが解除されます。

[参考]
走行や作業をするときは、駐車ブレーキレバーを「切」位置にします。駐車ブレーキレバーが「入」位置のとき、主クラッチレバーを「入」位置にできません。

ハンドルノブ

ハンドルを回動（ターン）するときに使用します。

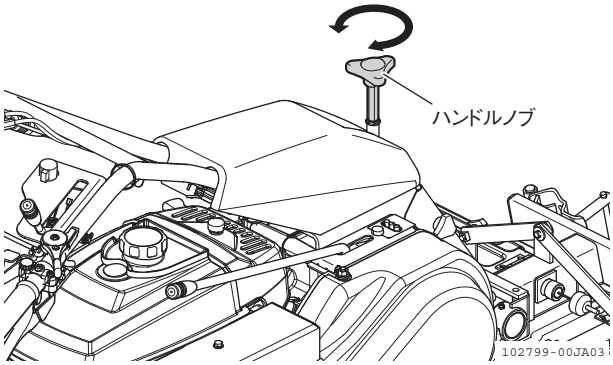


図 2-18 ハンドルノブ

ゆるめる…ハンドルを回動できます。
締める……ハンドルが固定されます。

ハンドルノブをゆるめてハンドルを 180 度ターンできます。ハンドルの回動方向は、リコイルスタータ側です。回動後は、ハンドルノブを確実に締め付けます。

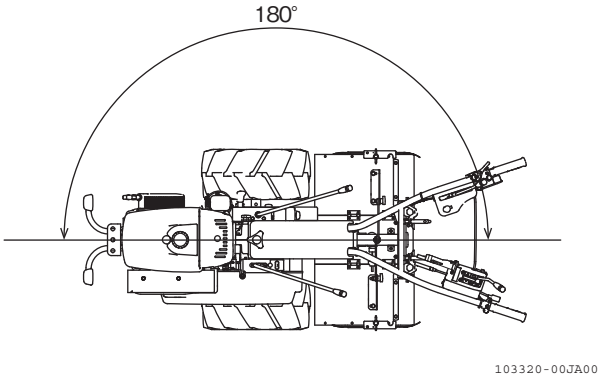


図 2-19 ハンドルの回動範囲

[重要]
ハンドル回動時、走行変速レバー、耕うん変速レバーと当たらないように注意してください。

エンジン部

エンジン部のレバー等について説明します。

リコイルスタータ

エンジンを始動するときに使用します。

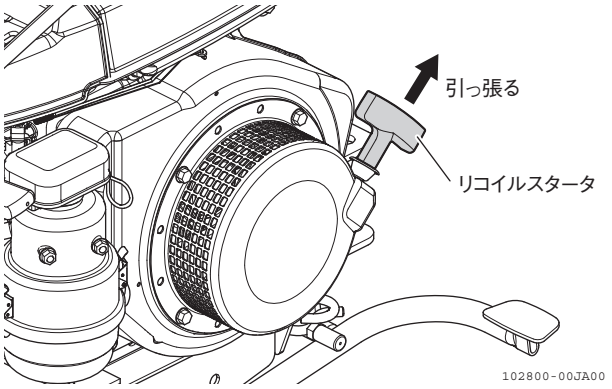


図 2-20 リコイルスタータ

主クラッチレバーを「切」位置にし、エンジンスイッチを「入（ON）」位置にして、リコイルスタータを勢いよく引っ張ると、エンジンが始動します。

チョークレバー

エンジンが冷えている場合、始動するときに使用します。

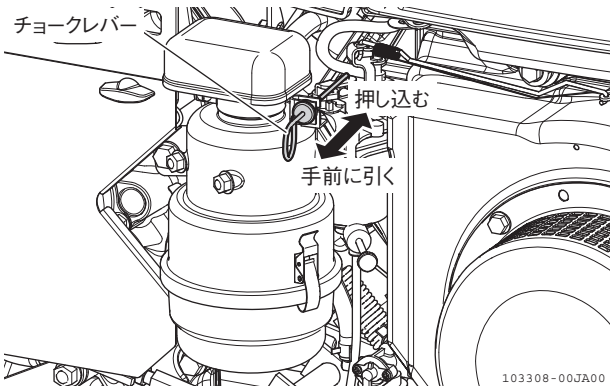


図 2-21 チョークレバー

手前に引く… 燃料の混合比を濃くして、エンジンを始動しやすくします。

押し込む…… 燃料の混合比が通常になります。
エンジン始動後は調子を見ながら徐々に押し込みます。

[重要]

- チョークレバーは、エンジン始動時以外には使用しないでください。
- エンジンが温まっているときは、チョークレバーを使用しないでください。

燃料コックレバー

エンジンへの燃料供給、停止の切り替えを行うときに使用します。

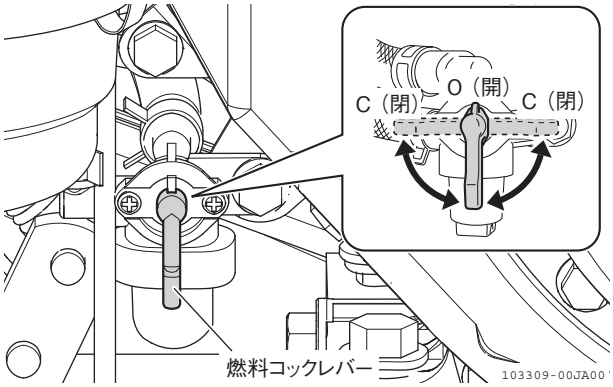


図 2-22 燃料コックレバー

「O（開）」位置… 燃料がエンジンへ流れます。
「C（閉）」位置… 燃料がエンジンへ流れません。
エンジン始動時、運転時は燃料コックレバーを「O（開）」位置に、エンジン停止時は「C（閉）」位置にします。

燃料ゲージ

燃料タンク内の燃料の残量が確認できます。

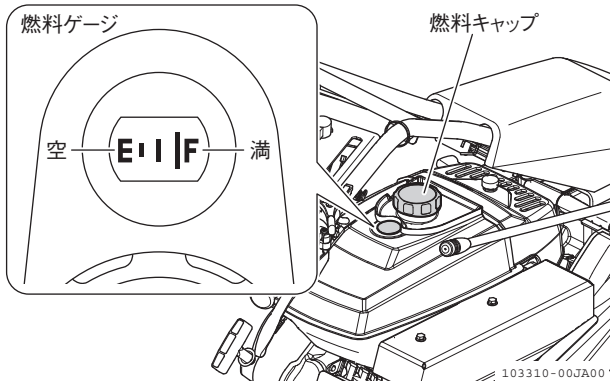


図 2-23 燃料ゲージ

ワンタッチキャブドレン

キャブレター内の燃料を抜くときに使用します。
キャブドレンを引くと燃料がドレンホースから流れ出ます。

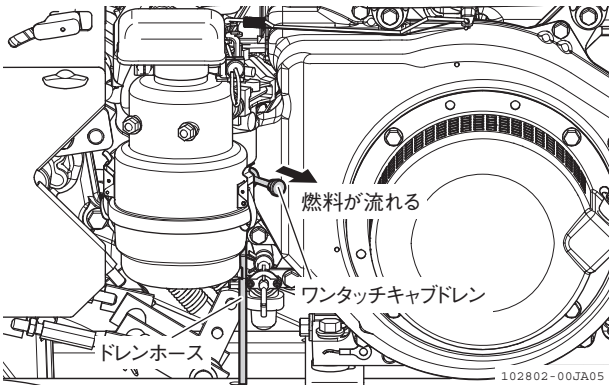


図 2-24 ワンタッチキャブドレン

エアクリーナー

エンジンに供給する空気をきれいにします。
定期的に洗浄してください。

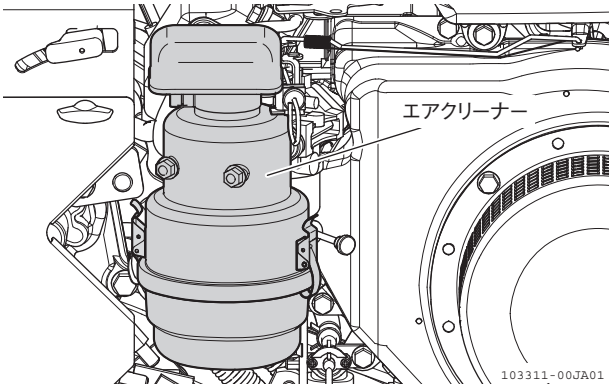


図 2-25 エアクリーナー

その他

その他の装置について説明します。

PTO軸キャップ

作業機を装着しないときに、PTO軸に取り付けます。

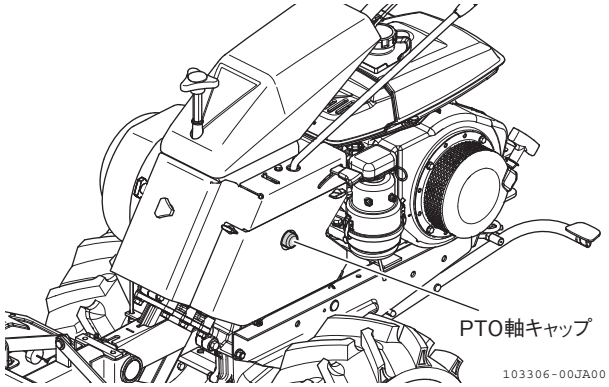


図 2-26 PTO軸キャップ

[重要]
エンジン運転中に、主クラッチレバーを「入」位置にすると、PTO 軸は回転します。安全のために、必ずPTO軸にPTO軸キャップを取り付けてください。

かるがるリフトペダル

うね立て作業時に使用します。

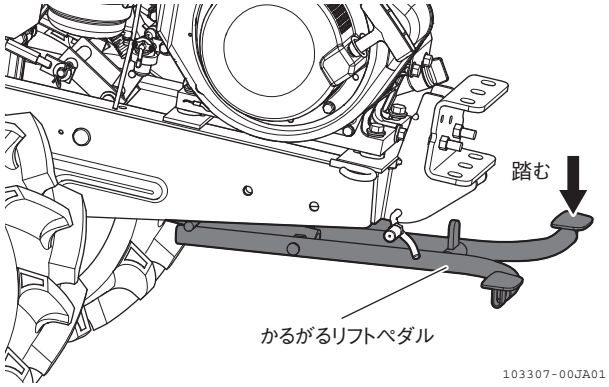


図 2-27 かるがるリフトペダル

かるがるリフトペダルを踏むと、うねから簡単に出ることができます。

[重要]
かるがるリフトペダルは 10 秒以上踏み続けないでください。10秒以上踏み続けると、Vベルトが切れるおそれがあります。

バッテリー充電端子

⚠ 危　険

バッテリーのケーブル端子を取り付けるときはプラス側を先に取り付け、外すときはマイナス側から外してください。守らないと、ショートして火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

エンジン前側に、外部電源（直流12V, 10A）があります。外部電源を使用するときは、作業機の取扱説明書をよく読み、規定容量を越えないように使用してください。また、必ず別売りのバッテリーを接続して使用してください。詳しくは、バッテリーの取扱説明書をよくお読みください。

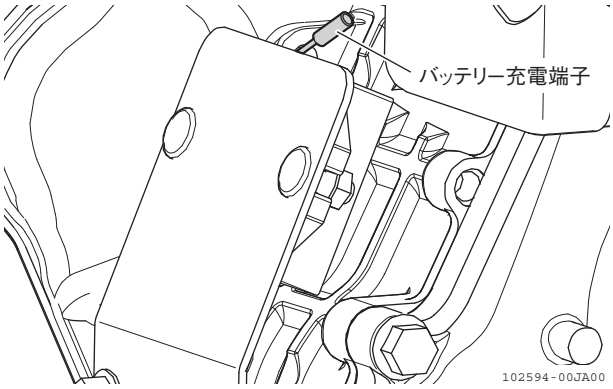


図 2-28 バッテリー充電端子

[重要]

- 外部電源を使用するときは、必ずバッテリーを接続して使用してください。
- 付属の充電ケーブルを使用するときは、充電ケーブルの（＋赤）（－黒）と、バッテリーの（+）（−）を間違えないように接続してください。
- 配線時、ハーネスがエンジンのエッジ部に接触しないように取り付けてください。ショートのおそれがあります。ボルトを外し、アース線（黒）を取り付けます。

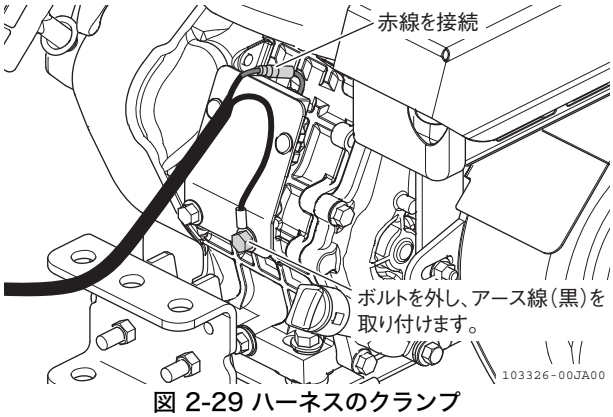


図 2-29 ハーネスのクランプ

運転前の点検

⚠ 危　険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明をしないでください。
- 燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 点検をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所に駐車し、エンジンを停止してください。
- エアクリーナーのエレメントは、必ず取り付けてから始動・運転をしてください。
  逆火により炎が噴き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 本機をご使用になる前に、必ず緊急停止ワイヤーを動かして、主クラッチレバーが「切」位置に戻ることを確認してください。主クラッチレバーが「切」位置に戻らない場合は、本機の使用を中止し、ただちに特販店、またはJAに修理を依頼してください。正常に動作しないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

緊急時の停止方法について

つぎの2種類の方法があります。

- エンジンスイッチを「切（OFF)」位置にしてください。エンジンが停止します。(図 2-30)

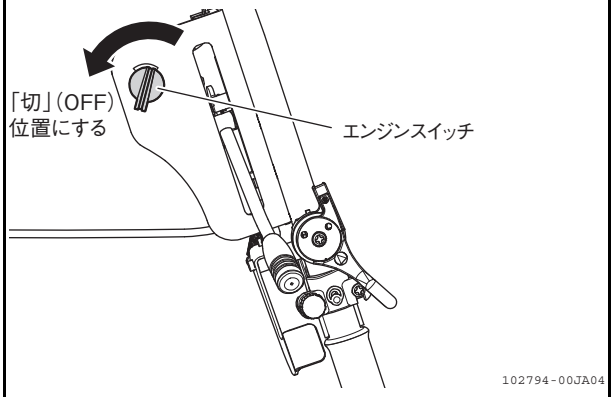


図 2-30 エンジンスイッチ

- 緊急停止ワイヤーを動かしてください。
  主クラッチレバーが「入」位置のときに緊急停止ワイヤーを前後に動かすと、主クラッチレバーが「切」位置に戻り、本機が停止します。
  (図 2-31)

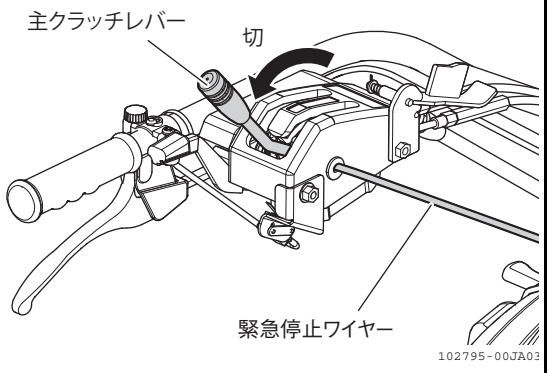


図 2-31 緊急停止ワイヤー

⚠ 注　意

- 破損しているカバー類がないか、必ず作業前に確認してください。カバー類が破損した状態で使用すると、回転部などに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- 使用前には必ず点検をしてください。特にクラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動しないときは、確実に作動するように調整してください。

点検のしかた

運転・作業を行う前に、つぎの点検を行ってください。

表 2-2 ハンドル「正・逆」の場合の各部確認箇所

No	確認箇所	ハンドル正位置の場合	ハンドル逆位置の場合	参照ページ
1	ハンドル位置	ロータリー側	エンジン側	15
2	走行変速レバー位置	ロータリー側	エンジン側	14
3	耕うん変速レバー位置	ロータリー側	エンジン側	14
4	走行変速レバー規制プレート	「黒メッキ」	「白メッキ」	26
5	主クラッチレバー規制プレート位置	「セット」位置	「解除」位置	27
6	サイドクラッチレバー左右位置	左:ノブねじ「白」 右:ノブねじ「黒」	左:ノブねじ「黒」 右:ノブねじ「白」	27

※イラストはハンドル逆位置の状態を示しています。

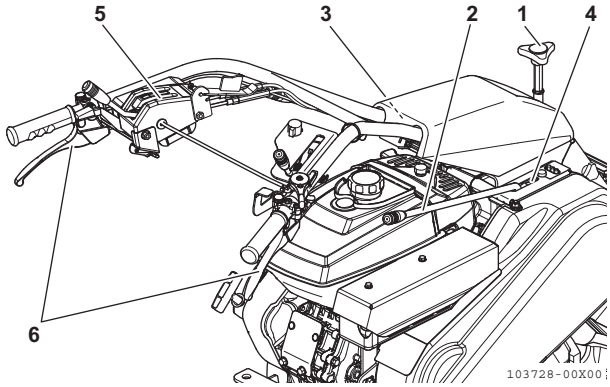


図 2-32 確認箇所

表 2-3 点検のしかた

点検箇所	参照ページ
各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか。	45
燃料は入っていますか。 燃料漏れ、燃料パイプの損傷はありませんか。	36
エンジンオイルは規定量入っていますか。 エンジンオイルの汚れ、漏れはありませんか。	37
走行ミッションオイルは規定量入っていますか。 走行ミッションオイルの漏れはありませんか。	39
エアクリーナーの汚れはありませんか。	40
マフラーなどの過熱部分にホコリやゴミはありませんか。	8
タイヤの空気圧は正常ですか。 また、損傷・摩耗はありませんか。	47
ベルトの損傷はありませんか。	41、43
配線の被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか。	–
各操作レバー、スイッチの作動状態は正常ですか。	11～18、41～45
主クラッチレバー「入」位置で緊急停止ワイヤーを動かすと、主クラッチレバーが「切」位置に戻りますか。	11、12
エンジンスイッチを停止位置にして、エンジンが停止しますか。	11

エンジンの始動と停止

始動のしかた

⚠ 警　告

- エンジンの始動および運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむをえず屋内で始動、運転する場合は、十分に換気をしてください。
- エンジンを始動する前に、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。
- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。本機が突然動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エンジン始動前の確認・準備

1. 燃料コックレバーを「O（開）」位置にします。（16ページ参照）
2. 主クラッチレバーを「切」位置にします。（図 2-33）

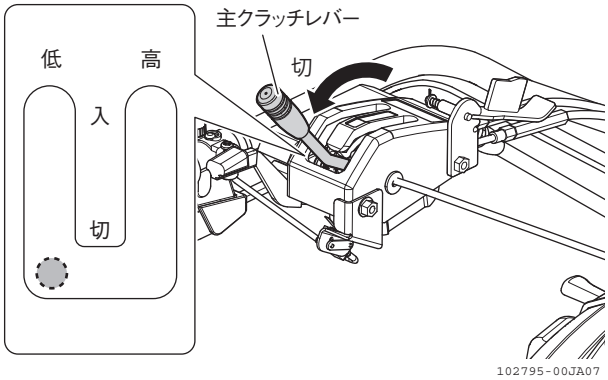


図 2-33 主クラッチレバー

[参考]
主クラッチレバーを「切」位置にしないと、エンジンが始動しません。

3. 耕うん変速レバーを「中立」位置にします。（14ページ参照）
4. 走行変速レバーを「N（中立）」位置にします。（13ページ参照）
5. アクセルレバーの▲印を「●」（エンジン始動）位置に合わせます。（11ページ参照）
6. （エンジンが冷えている場合のみ）チョークレバーを引きます。（16ページ参照）

[重要]
- チョークレバーは、エンジン始動時以外には使用しないでください。
- エンジンが温まっているときは、チョークレバーを使用しないでください。

エンジン始動操作のしかた

1. エンジンスイッチを「入（ON）」位置にします。
2. リコイルスタータを引っ張ります。
   エンジンが始動したら、リコイルスタータをゆっくりと元に戻します。（16ページ参照）
3. （チョークレバーを引いている場合のみ）
   エンジンの回転状態を見ながら、チョークレバーを徐々に押し込みます。（16ページ参照）

[重要]
- リコイルスタータを何回も引っ張り続けると、燃料の吸いすぎとなり、始動が困難になります。そのときは、少し時間をおいてから始動してください。
- 運転中は、リコイルスタータを引っ張らないでください。

[参考]
リコイルスタータを2〜3回引っ張ってもエンジンが始動しないときは、チョークレバーを押し込み、再度リコイルスタータを引っ張ります。

4. アクセルレバーを「L（低）」位置にします。
   エンジン回転が下がります。
5. 約 5 分間、エンジンをかけたままにしておきます。（暖機運転）

[重要]
冬季など、外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング（回転ムラ）を起こす場合があります。
そのような場合は、アクセルレバーを「H（高速）」側と「L（低速）」側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

エンジンの停止のしかた

1. アクセルレバーを「L（低速）」位置にします。
2. エンジンスイッチを「切（OFF）」位置にします。
   エンジンが停止します。
3. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にします。

運転操作

本機の発進から停車までの操作方法を説明します。

⚠ 警　告
- 本機を使用する前に、必ず緊急停止ワイヤーを動かして、主クラッチレバーが「切」位置に戻ることを確認してください。
  主クラッチレバーが「切」位置に戻らない場合は、本機の使用を中止し、ただちにお買い上げいただいた特販店、またはJAへ修理を依頼してください。
- 本機の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。
- 主クラッチレバーを急激に操作しないでください。急発進や、ハンドルが突然上昇することがあります。
- 坂道をやむをえず走行するときは、転倒やスリップに注意し、最低速度で移動してください。このとき、走行変速レバーを「N（中立）」位置にしたまま走行しないでください。
- 溝のある農道や傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い場所は低速で移動してください。
- 後進するときは、アクセルレバーを「L（低速）」位置にし、周囲に十分注意してください。

⚠ 注　意
溝やあぜを横断したり、軟弱な場所を通るときは、最低速度で移動してください。

発進のしかた

1. 主クラッチレバーを「切」位置にします。
2. 走行変速レバーを「N（中立）」位置にします。
3. 走行変速レバーを希望の位置に入れます。
4. 駐車ブレーキレバーを「切」位置にします。
   （15ページ参照）
5. ロータリー作業をするときは、耕うん変速レバーを希望の位置に入れます。（14ページ参照）
6. アクセルレバーでエンジン回転を調整します。
   （11ページ参照）

7. 主クラッチレバーを作業に応じて「低」または「高」位置にゆっくりと操作します。本機が発進します。(11ページ参照)

[重要]

- 主クラッチレバーを「入」位置にするときは、必ず駐車ブレーキレバーを「切」位置にしてください。
  駐車ブレーキレバーが「入」位置のまま主クラッチレバーを「入」位置に操作すると、ブレーキ部品が破損するおそれがあります。
- 主クラッチレバーが「入」位置のときに緊急停止ワイヤーを前後左右のいずれかの方向に動かすと、主クラッチレバーが「切」位置に戻り、本機が停止します。危険を感じたら、緊急停止ワイヤーを動かしてください。

変速のしかた

⚠ 警 告

後進時は、アクセルレバーを「L(低速)」位置にし、周囲に十分注意をして行ってください。守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注 意

変速をするときは、必ず主クラッチレバーを「切」位置にして、本機が停止してから行ってください。主クラッチレバーが「入」位置のまま変速すると、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

1. アクセルレバーを「L (低速)」位置にします。
2. 主クラッチレバーを「切」位置にして、いったん本機を停止させます。
3. 走行変速レバーおよび耕うん変速レバーを作業内容に適した位置をつぎの 表 2-4、表 2-5 を確認し操作します。

■ 速度段と標準作業表

表 2-4 ハンドル逆位置

主変速	変速段数	副変速段数	主クラッチ	適応作業	耕うん変速
前進(F)	1	1	低	旋回	—
	2	2	低		
	3	1	高		
	4	2	高		
	5	3	低	移動	
	6	3	高		
後進(R)	1	1	低	うね立て	低速
	2	2	低		
	3	1	高		
	4	2	高	移動	—

表 2-5 ハンドル正位置

主変速	変速段数	副変速段数	主クラッチ	適応作業	耕うん変速
前進(F)	1	1	低	土寄せ	高速
	2	2	低		
	3	3	低		
後進(R)	1	1	低	移動	—

[参考]

停止時に走行変速レバーが入りにくい場合は、本機を前後に動かしてください。レバーが入りやすくなります。

4. 主クラッチレバーを作業に応じて「低」または「高」位置にゆっくりと操作します。

[参考]

ハンドルがエンジン側にある場合の前進時、およびロータリー側にある場合の後進時は、ロータリー軸は回転しません。

旋回のしかた

⚠ 警　告

- 旋回中は、ロータリーの爪を回さないでください。守らないと、爪や作業機に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 坂道で旋回する場合や、傾斜地作業でわずかに進路を変更する場合は、サイドクラッチレバーを操作しないでください。守らないと、本機の自重で思わぬ方向に旋回し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 坂道では、主クラッチレバーを「切」位置にしないでください。また、主変速レバーを「N（中立)」位置にしないでください。

⚠ 注　意

- 高速走行時は、サイドクラッチレバーを使用しないでください。
- ハンドルターン（回動）したときは、サイドクラッチレバーの切れる方向が逆になります。必ず27ページの手順に従って、サイドクラッチレバーの左右を入れ替えてください。左右を入れ替えないと、思った方向と逆に旋回し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- <ハンドル正位置>
  旋回するときは、ハンドルを持ち上げて旋回してください。ハンドルを持ち上げずに旋回すると、思わぬけがをするおそれがあります。
- <ハンドル逆位置>
  旋回するときは、ハンドルを押し下げて旋回してください。ハンドルを押し下げずに旋回すると、思わぬけがをするおそれがあります。

1. アクセルレバーを「L（低速)」位置にします。
2. ロータリーを装着している場合は、耕うん変速レバーを「N（中立)」位置にし、ロータリー回転を止めます。(14ページ参照)
3. ハンドル上下レバーを押しながら、ハンドルを下げます。(13ページ参照)
4. ハンドル上下レバーから手を離してハンドルを固定します。
5. ハンドルを持ち上げ、旋回したい側のサイドクラッチレバーを握り、旋回します。(12ページ参照)
6. 旋回終了後、ハンドル上下レバーで再びハンドルを元の高さにします。

停車のしかた

⚠ 注　意

平たんで安定した場所に停車し、エンジンを止めてください。守らないと、本機が動き出し、けがをするおそれがあります。

1. 主クラッチレバーを「切」位置にします。
   クラッチが切れ、本機が停止します。(図 2-34)

[参考]

- ハンドルから手を離さずに、主クラッチ切レバーを押しても主クラッチが切れます。
- 緊急の場合は、緊急停止ワイヤーを押すか、引っ張って主クラッチレバーを「切」位置にしてください。

2. アクセルレバーを「L（低速)」位置にします。エンジン回転が下がります。(図 2-34)
3. 走行変速レバーを「N（中立）」位置にします。(図 2-34)
4. エンジンスイッチを「切（OFF)」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-34)

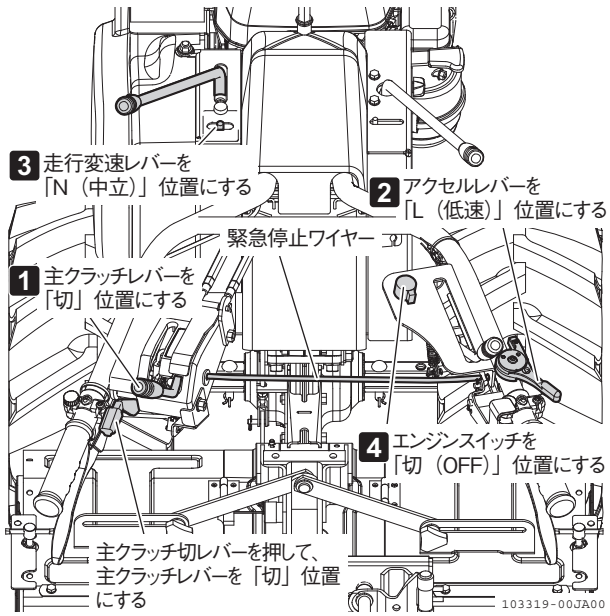


図 2-34 エンジンスイッチ「切（OFF)」位置

5. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にします。(16ページ参照)

駐車のしかた

⚠ 注　意

やむをえず坂道で駐車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、タイヤに車止めをかけてください。守らないと本機が動き出し、けがをするおそれがあります。

1. 本機を平たんで安全な場所に移動させます。
2. エンジンを停止します。
3. 駐車ブレーキレバーを「入」位置にします。
   （15ページ参照）

[参考]

駐車ブレーキが「入」位置でも、サイドクラッチレバーを握ると、駐車ブレーキが効きませんので注意してください。

作業前の準備

⚠ 警　告

- 作業中にロータリーが石を噛んだり、固い地面にロータリーを急に降ろすと、回転する爪の勢いで本機が思わぬ方向に飛び出す（ダッシュ）ことがあります。特に川や崖、人のいる方向に飛び出すと、転落や傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 各部の調節を行うときは、平たんで安定した場所で駐車ブレーキをかけて行ってください。守らないと、本機が転倒して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

各部の調節を行うときは、エンジンを停止させてください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。また、過熱部分が冷めてから行ってください。過熱部に触ると、ヤケドをするおそれがあります。

ハンドル高さの調節のしかた

⚠ 警　告

ハンドルの高さを調節するときは、本機を停止してから行ってください。守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ハンドルの高さは、作業者に合わせて、6段階に調節できます。
ハンドル上下調節レバーを下げたまま、ハンドルを上下に動かし、適切な位置でレバーを離すと、その位置で固定されます。（13ページ参照）

走行変速レバー・耕うん変速レバーの位置の変えかた

走行変速レバーおよび耕うん変速レバーは、ハンドルの回動位置に合わせて操作しやすい位置にセットできます。

1. 走行変速レバーの曲部を持ち上げて回します。（13ページ参照）
2. 耕うん変速レバーの曲部を持ち上げて回します。（14ページ参照）

ハンドルターン（回動）のしかた

ハンドルターン（回動）のしかた

⚠ 警　告

ハンドルの回動をしたときは、必ずつぎの３項目を行ってください。

- サイドクラッチレバーの入れ替え
- 走行変速レバーの規制プレートの設定
- 主クラッチレバーの規制プレートの設定

守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 耕うん変速レバーをエンジン側にします。
2. ハンドルノブをゆるめます（15ページ参照）
3. ハンドルを回動します。
4. ハンドルノブを締めて、ハンドルを固定します。
5. 耕うん変速レバーを希望の位置にセットします。

[重要]

- ハンドル回動時、走行変速レバー、耕うん変速レバーと当たらないように注意してください。
- ハンドルターン（回動）は、リコイルスタータ側にしかターンできません。
- ハンドルターン（回動）は、本機と干渉しないように、ハンドルを最上段位置にしてから行ってください。
- ハンドルターン（回動）後はハンドルノブを確実に締め付けてください。

走行変速レバー規制プレートのセットのしかた

⚠ 警　告

ハンドル位置に合わせて、主クラッチレバーの規制プレートのセット、走行変速レバーの規制プレート（白メッキ・黒メッキ）のセットをしてください。

1. 上面カバーを外します。

[参考]

上面カバーを外すときは、走行変速レバーを2速、または3速の位置にすると外しやすくなります。

2. 走行変速レバー用規制プレートをハンドルの向きに合わせて取り付けます。

■ 走行変速レバー規制プレート(白メッキ) <ハンドル逆位置用>

ねじを外して上面カバーを外し、規制プレート（白メッキ）をセットし、上面カバーを取り付けます。(図 3-1)

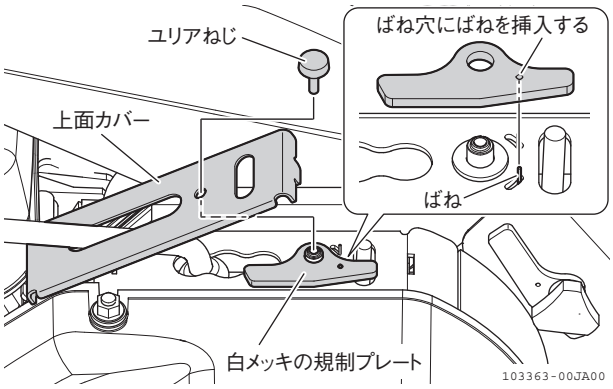


図 3-1 規制プレート（白メッキ）

■ 走行変速レバー規制プレート(黒メッキ) <ハンドル正位置用>

ねじを外して上面カバーを外し、規制プレート（黒メッキ）をセットし、上面カバーを取り付けます。(図 3-2)

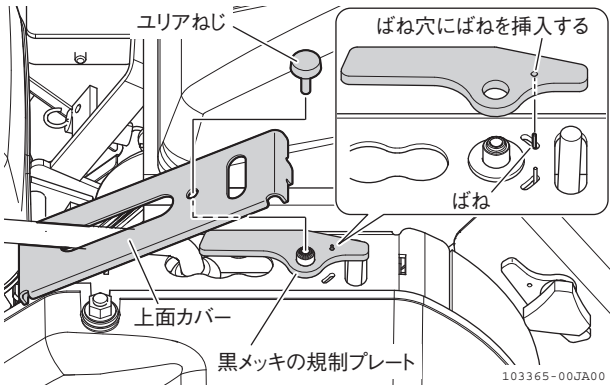


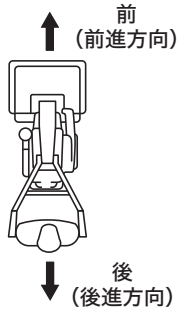
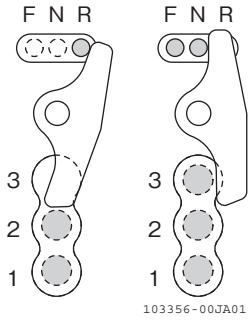
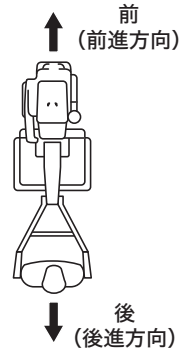
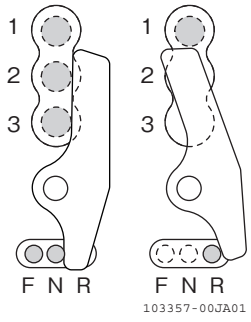
図 3-2 規制プレート（黒メッキ）

[重要]

- 走行変速レバーは必ず主クラッチレバーを「切」位置にしてから操作してください。
- 走行変速レバーの位置を規制するための「規制プレート」が取り付けられています。ハンドル位置に合わせて規制プレートを必ず使用してください。

3. 走行変速レバーを希望の位置に入れます。

表 3-1 ハンドル側から見た変速位置

ハンドル位置	主変速パターン
逆位置 	規制プレート(白メッキ) 
正位置 	規制プレート(黒メッキ) 

■ 走行変速レバー規制プレート収納場所

使用しない規制プレートは、うね立て専用機の側面に固定ねじで留めておきます。

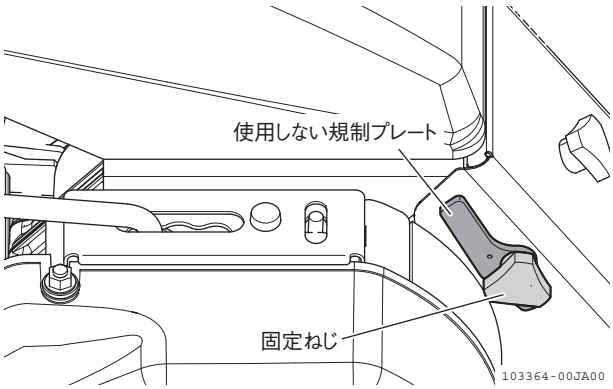
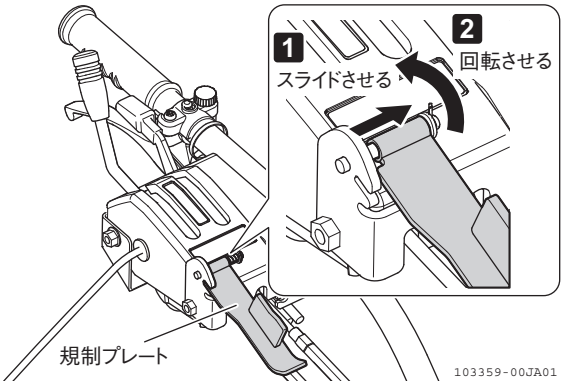


図 3-3 規制プレート収納場所

主クラッチレバー規制プレートのセットのしかた

1. 規制プレートを横にスライドさせてから回転させます。



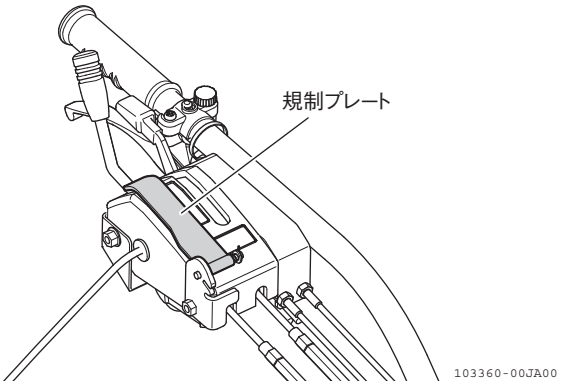


図 3-4 規制プレート「セット位置」

＜規制プレートの解除のしかた＞

1. セットした逆の手順で行います。

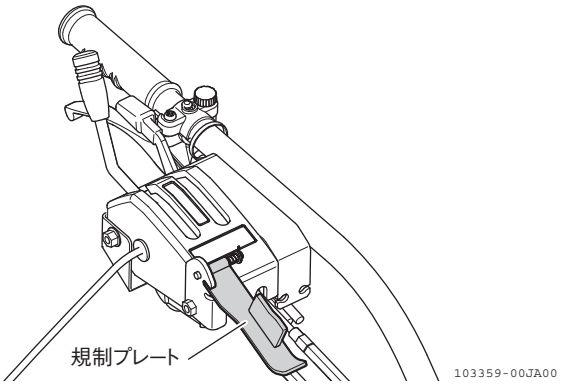


図 3-5 規制プレート「解除位置」

サイドクラッチレバーの左右の入れ替えかた

⚠ 注 意

ハンドルターン(回動)したときは、サイドクラッチレバーの切れる方向が逆になります。必ずサイドクラッチレバーの左右を入れ替えてください。サイドクラッチレバーを「切」位置にしたとき、逆方向に曲がり、おもわぬけがをするおそれがあります。

[重要]

サイドクラッチの入れ替え後は、必ずサイドクラッチの作動を確認してください。確実に作動しない場合は、サイドクラッチワイヤーの調整をしてください。調整のしかたは42ページを参照してください。

1. 左右のサイドクラッチレバーのノブねじをゆるめて、サイドクラッチレバーを前方に抜き出します。(図 3-6)

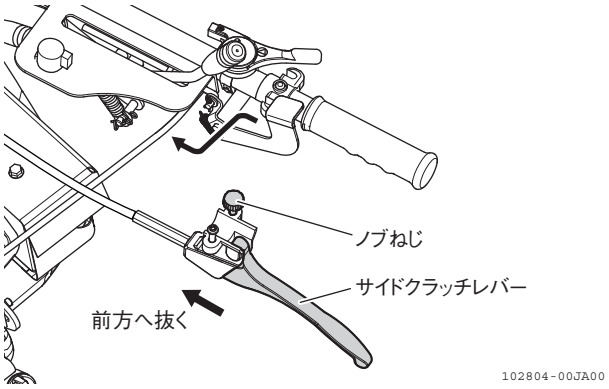


図 3-6 サイドクラッチレバーの取り外し

2. 左右のサイドクラッチレバーを入れ替え、ノブねじで固定します。(図 3-7)

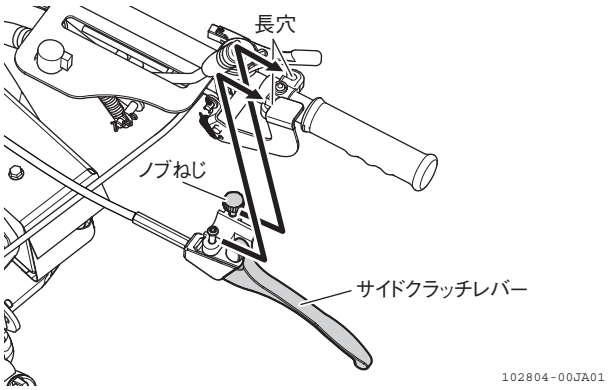
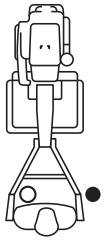
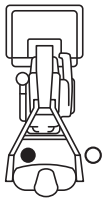


図 3-7 サイドクラッチレバーの取り付け

[重要]
ノブねじは左右で色が異なります。ノブねじの色が表3-2のようになっていることを確認してください。

表 3-2 ハンドル位置によるノブねじの色

〈ハンドル正位置〉	〈ハンドル逆位置〉
	
ノブねじの色	
ハンドル左　白 ハンドル右　黒	ハンドル左　黒 ハンドル右　白

車輪幅の調節のしかた

作業に合わせて、車輪幅を調節します。

■ 調節のしかた

1. タイヤのピンを外します。(図 3-8)
2. 希望の車輪幅になるように、車軸パイプの穴にタイヤを合わせます。(図 3-8)
3. ピンを差し込んで固定します。(図 3-8)

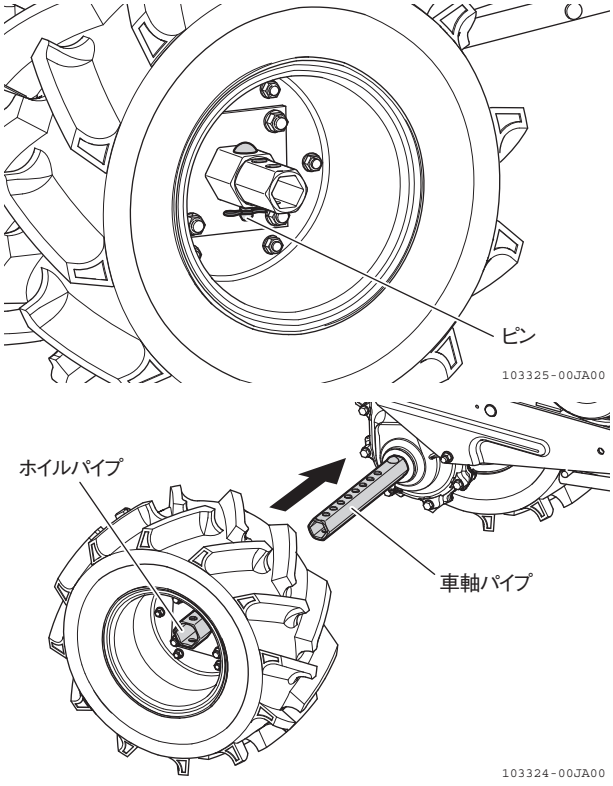


図 3-8 車輪幅の調節

車輪幅

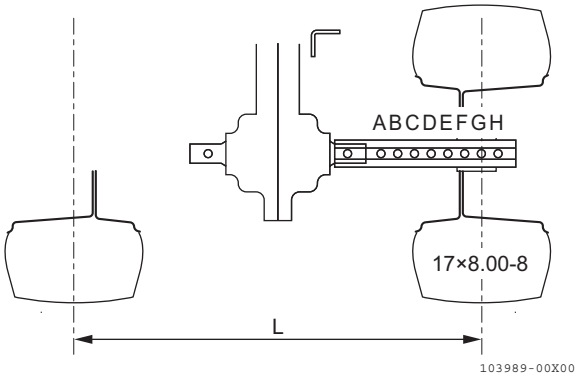


図 3-9 車輪幅

表 3-3 車輪幅

ピン穴位置	L:車輪幅
A	—
B	—
C	408
D	458
E	508
F	558
G	608
H	658

※ 車輪幅は、左タイヤ中心から右タイヤ中心までの距離です。

クイックうね立て機構および かるがるリフト機構の使いかた (ロータリーフレーム回動)

⚠ 警 告

回動角が大きければ大きい程、ロータリーが早く潜り込んで行きます。潜り込みすぎるとダッシュ現象が発生するので、回動規制ボルトを押し込んで調整してください。
守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ほ場での操作方法

1. うね立て作業を始めるときに、クイックうね立てレバーを前方に倒します。(12ページ参照)

   この状態で本機を後進させるとロータリーが土に潜り込み、整形器は土の抵抗で本機側のプレートに角度規制ボルトが当たるまで回動し、うねの立ち込み始めの姿勢になります。(図 3-10)

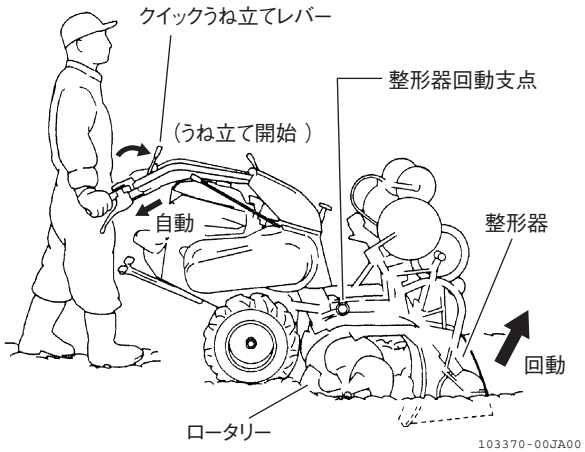


図 3-10 うねの立ち込み始めの姿勢

2. 回動した状態で少し後進して、ロータリーをある程度潜り込ませます。
3. いったん主クラッチレバーを「切」位置にし、停止させます。
4. ハンドルを押し下げ、かるがるリフトペダルを軽く踏み込みます。整型器は固定ピンにより固定されます。
   クイックうね立てレバーは自動的に「切」位置に戻ります。(図 3-11)

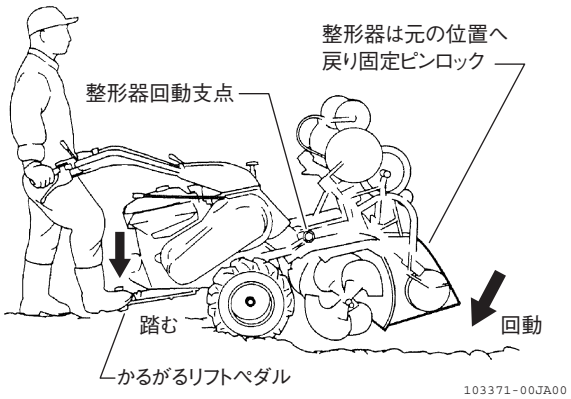


図 3-11 かるがるリフトペダル

[参考]

- ハンドル高さを合わせて、その場から通常の作業方法で作業を始めてください。(図 3-12)

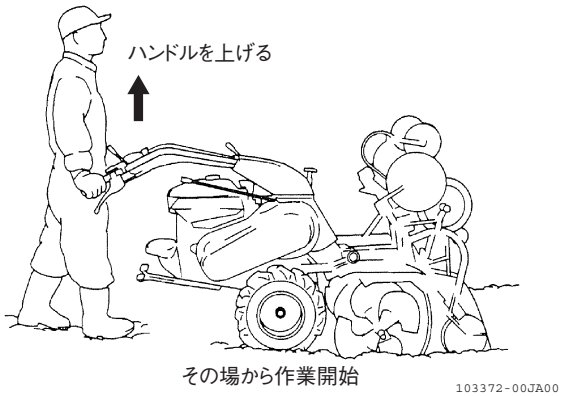


図 3-12 うね立て作業

- 回動を始めないときは固定ピンに力がかかって穴から抜けていない状態です。主クラッチを「切」位置にし、整型器を地面につけ、ハンドルを上下させて固定ピンにかかる力を抜くと、固定ピンが穴から抜けます。(図 3-11)
- うね立て作業時に枕地までうねを立てて旋回しようとすると、ロータリーが土中に食い込んでいるためハンドルを押さえてもロータリーが土中から脱出できません。このようなときは、図 3-11 のようにかるがるリフトペダルを踏んでください。簡単にロータリーが浮き上がります。

かるがるリフト機構の収納のしかた

レバーを引いてペダルを持ち上げてロックします。(図 3-13)

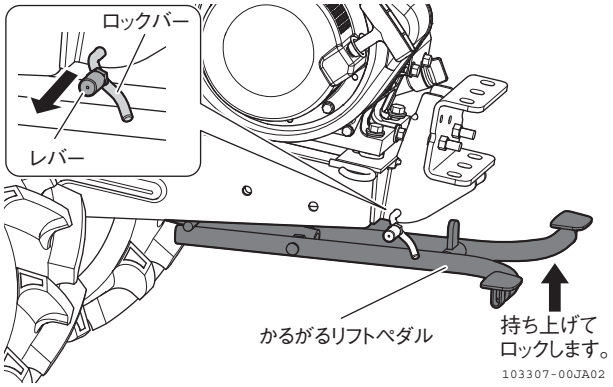


図 3-13 かるがるリフト機構

作業機の取り付けかた

⚠ 注　意

作業中は動力伝達装置・回転部・爪などに触れないようにしてください。回転部に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

[参考]

かるがるリフト機構を踏むと、主クラッチとサイドクラッチが切れ、ロータリーが逆回転します。これにより土中に潜り込んだローターが浮き上がります。

フロントヒッチ

フロントウエイトなどを取り付けるときに使用します。(8ページ参照)

PTO軸

⚠ 注　意

PTO 軸を使用しないときは、PTO 軸にグリスを塗布した後、PTO 軸キャップを取り付けてください。取り付けていないと、PTO 軸に巻き込まれけがをするおそれがあります。

ロータリーなどの回転動力を得る場合に使用します。(図 3-14)

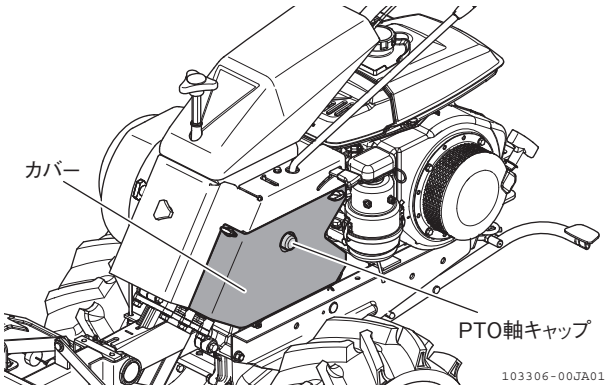


図 3-14 PTO軸

エンジン運転中に、主クラッチレバーを「入」位置にすると、PTO軸は回転します。作業機を取り付けていないときは、つぎの要領でPTO軸キャップを取り付けてください。

■ PTO軸キャップの取り付けかた

1. カバーを外します。(図 3-14)
2. PTO軸キャップの凸部を、PTO軸回りの凹溝に合わせてはめ込みます。
3. PTO軸キャップを回して取り付けます。(図 3-15)

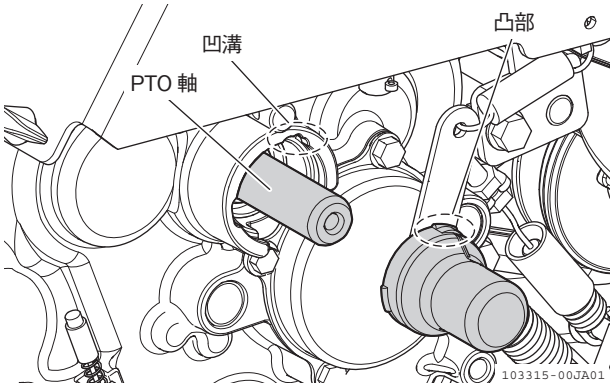


図 3-15 PTO軸キャップ

4. 外すときは、取り付けの逆の手順で行います。

ロータリーカバーの調節のしかた

ロータリーカバー開閉するとき

ロータリーカバー左右のスイング調節ねじをゆるめます。左右のカバーをそれぞれ好みの角度に調節し、調節後は調節ねじを締め付けます。（図 3-16）

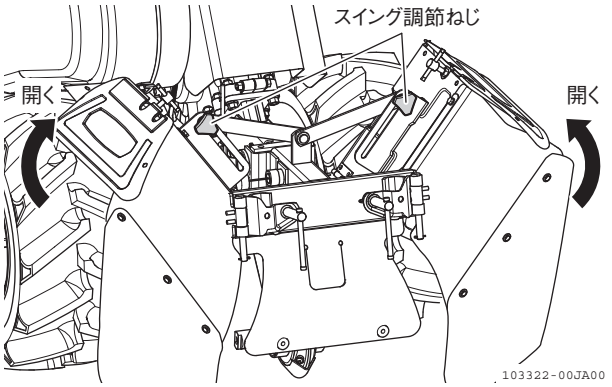


図 3-16 ロータリーカバー開閉

サイドカバーを開閉するとき

1. サイドカバー左右の調節ねじをゆるめます。
2. サイドカバー左右を作業に合わせて開閉角度を調節し、調節後は調節ねじを締め付けます。（図 3-17）

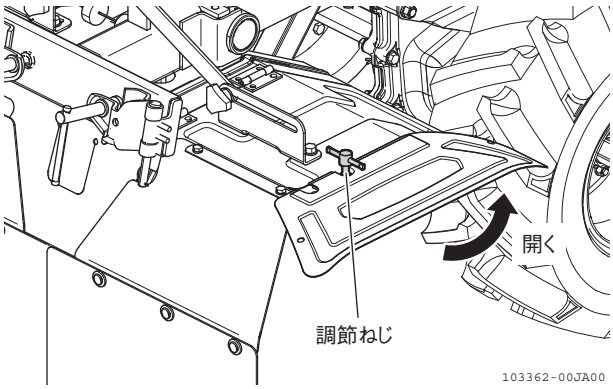


図 3-17 サイドカバーの開閉

作業後の手入れについて

作業後の手入れのしかた

⚠ 注　意

作業部の手入れ・洗浄は、必ずエンジンを停止し、手袋を着用して行ってください。守らないと、けがをするおそれがあります。

作業後はその日のうちに水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各回転・摺動部に適量注油してください。
アタッチメント装着時は爪や爪軸、ロータリーカバー内に付着した土は、きれいに洗い取ってください。
また、爪軸に草などが巻き付いていたら、取り除いてください。

[重要]

- 水洗いをするときは、エアクリーナーの吸気口やキャブレターに水が入らないようにしてください。(図 4-1)
- リコイルスタータ部の吸気口に付いたゴミは、きれいに掃除してください。(図 4-1)
- リコイルスタータ部の吸気口は、エンジンの冷却風を吸い込むところです。きれいに掃除しないと、エンジンの過熱や出力低下の原因になります。(図 4-1)

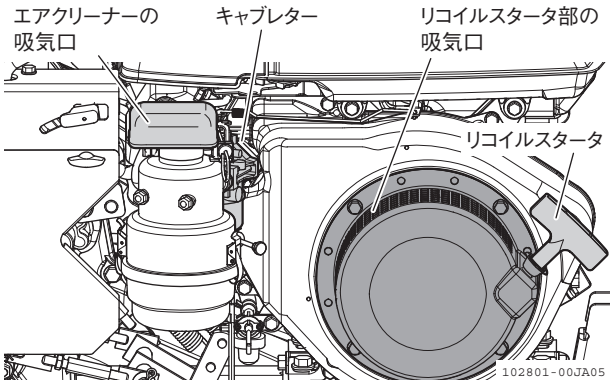


図 4-1 お手入れのしかた

各部の注油箇所

⚠ 注　意

回転部へ注油するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。守らないと、けがをするおそれがあります。

＜凡例＞

注油位置：　注油位置　グリス位置

■ 主クラッチ「低」ワイヤーエンド・支点
主クラッチ「高」ワイヤーエンド・支点
主クラッチ切レバーカム

その他、各支点・リンク・ワイヤーエンドへ注油してください。

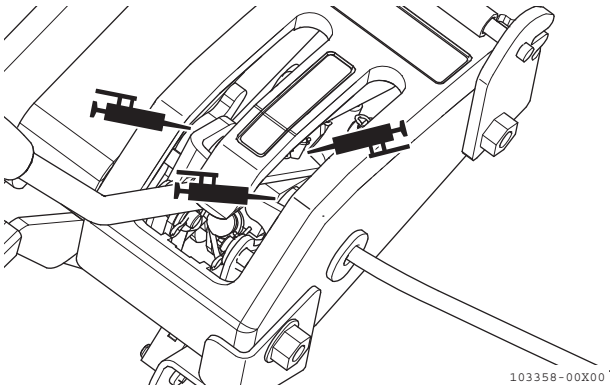


図 4-2 主クラッチ関係

■ クイックうね立てレバー支点
クイックうね立てレバーワイヤーエンド
サイドクラッチレバー支点

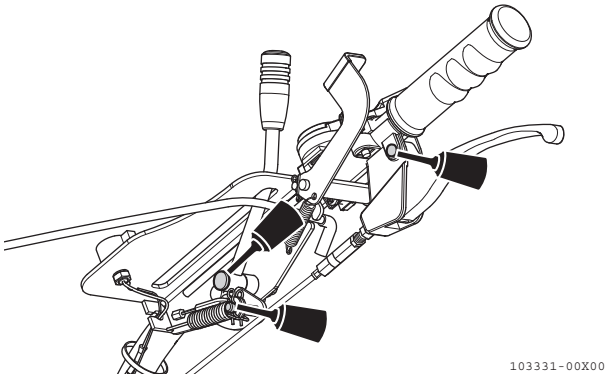


図 4-3 クイックうね立てレバー関係

■ テンションアーム支点

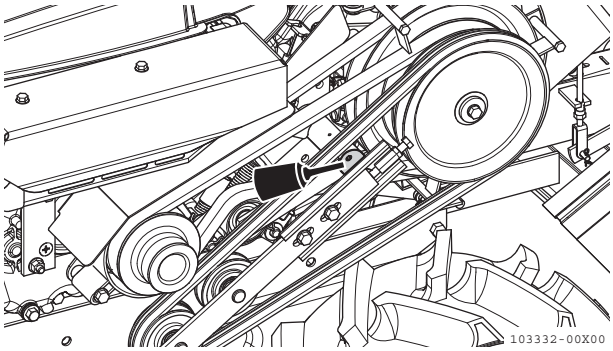


図 4-4 テンションアーム支点

[重要]
ベルトに油がかからないように注意してください。

■ 副変速リンク支点

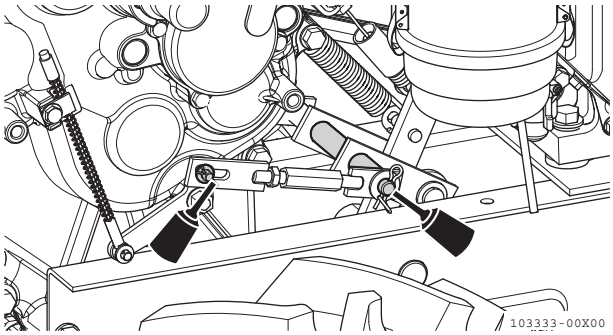


図 4-5 副変速リンク支点

■ 耕うん変速リンク

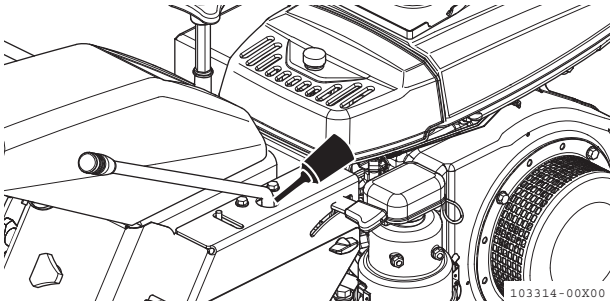


図 4-6 耕うん変速リンク

■ かるがるリフトペダル支点

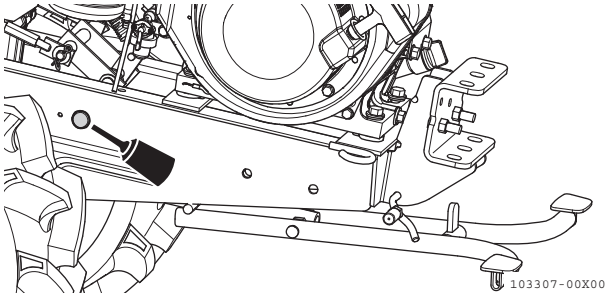


図 4-7 かるがるリフトペダル支点

■ ハンドル上下支点

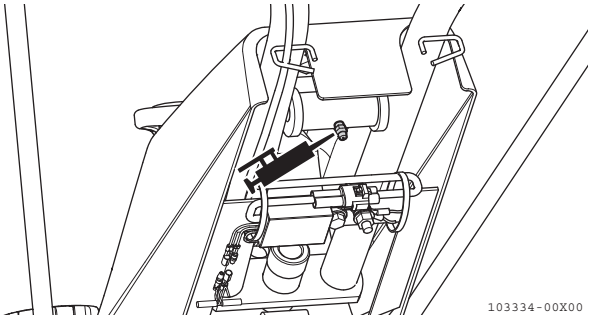


図 4-8 ハンドル上下支点

■ 主変速リンク

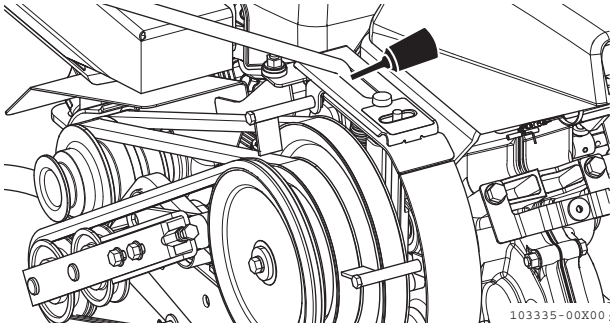


図 4-9 主変速リンク

■ クイックうね立て支点

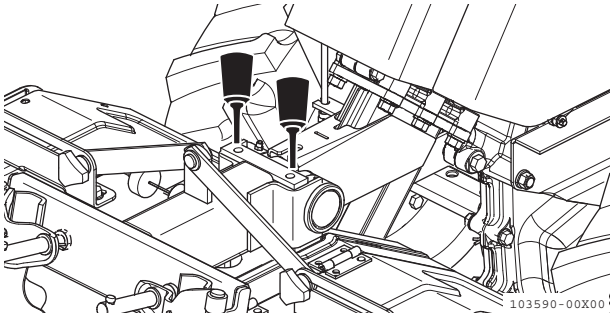


図 4-10 クイックうね立て支点

■ 主変速けん制プレート

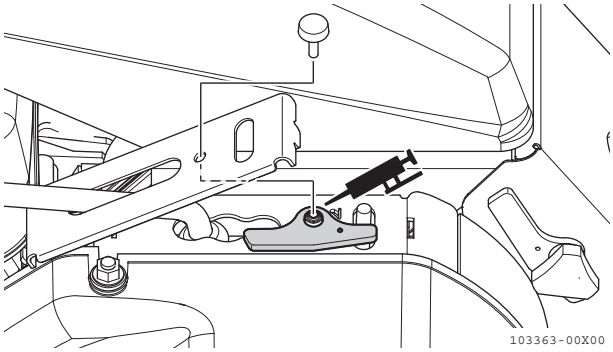


図 4-11 主変速けん制プレート

点検・整備のしかた

点検・整備の前に、同梱の「安全に作業をするために」をよくお読みください。

⚠ 警　告

- 作業者および補助者は作業に適した服装をしてください。思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備時は、本機を平たんで安定した場所に駐車し、エンジンを停止してください。また、手袋を着用してください。
- 室内で点検・整備をするときは、十分に換気をしてください。エンジンの排出ガスで中毒を起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- 角部などが摩耗して鋭利になっている場合、人が触れてけがをするおそれがあります。始業前に確認してください。また、鋭利部を見つけたらお買い上げいただいた特販店または JA に修理を依頼してください。
- ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。守らないと、燃料が漏れて火災が起こり、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、けがをするおそれがあります。

[重要]

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店、または JA にご相談ください。

定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行うと、農繁期に本機の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。本機の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに整備工場で定期点検整備を受け、各部の保安を確認してください。特に燃料パイプやゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に本機を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

定期点検一覧表

表 4-1 定期点検一覧表

点検・調節箇所	点検・交換時期	内容	参照ページ
エンジンオイル	作業前に点検 1回目：25時間目に交換 2回目以降：50時間ごとに交換	規定量：1.0L エンジンオイル（ガソリンエンジン用）SE級以上 ・夏季（20℃以上）… SAE30番 ・春・秋季…… SAE20番 ・冬季（10℃以下）… SAE10W-30番	37
走行ミッションオイル	1回目：50時間目に交換 2回目以降：100時間ごとに交換	規定量：5.3 L ギヤオイル：GL-4級以上 SAE80W	39
エアクリーナーエレメントの掃除	作業前に点検	灯油で洗浄、または交換	40
エアクリーナーのオイルだまり	作業前に点検	エンジンオイル（ガソリンエンジン用）SE級以上の補給（OIL LEVELと記載されているところまで入れる。）	40
燃料コシ器エレメント	作業前に点検	ストレーナーカップ・フィルターの掃除	40
主クラッチレバー	作業前に点検	クラッチ「入」時、指でベルト中央部を押したときのたわみ量：約10～15 mm	41
サイドクラッチレバー	作業前に点検	レバーの遊び量：1～2 mm	42
クイックうね立てレバー	作業前に点検	レバー「切」位置の遊び量：1～3 mm	44
		レバー「入」位置の遊び量：1～3 mm	45
緊急停止ワイヤー	作業前に点検	主クラッチレバー「入」時、ワイヤーを引いたとき、主クラッチが切れる	44
駐車ブレーキレバー	作業前に点検	駐車ブレーキレバー「入」位置で、容易に本機が移動しない	44
ハンドル上下調節レバー	作業前に点検	レバーの遊び量：グリップ上端に合わせる	43
各規制プレート	作業前に点検	ハンドル正位置・逆位置時に、規制プレートを設定したとき、規制された部分に変速されない	25、27
主クラッチベルト	作業前に点検	損傷、亀裂がない	41
リフトベルトの調整	作業前に点検	指でベルト中央部を押したときのたわみ量 ：約20～25 mm	43
タイヤの空気圧	作業前に点検	空気圧：240 kPa	47
点火プラグ	50時間ごとに点検	火花ギャップ（電極すき間）：0.7 mm	46
耕うんフレーム取付ボルト	作業前に点検	増締め	45
エンジン取付ボルト	作業前に点検	増締め	45

燃料の点検・補給・排出のしかた

⚠ 危　険

- 燃料補給時は火気厳禁です。
  燃料は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
  - エンジンを必ず止めて燃料補給をしてください。
  - タバコなどの火気を近づけないでください。
  - こぼれた燃料は必ずふき取ってください。
- エンジン回転中やマフラーが熱い間は給油をしないでください。火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 規定量を守ってください。入れすぎると燃料キャップからガソリンがあふれ、こぼれたガソリンに引火して火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給をする前に、本機などの金属部分に触れて、身体の静電気を放電してください。
  静電気の放電による火花が気化したガソリンに引火して火災や爆発が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料は、燃料フィルターを通して補給してください。
  ゴミなどが詰まり、燃料が漏れて火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

ガソリンは、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。
ガソリンの処分は、特販店または JA へご相談ください。

燃料の点検・補給のしかた

1. ロータリー爪を装着していない場合は、ハンドルを正位置にし、角材などを置き、エンジンが水平になるようにします。
   ロータリー爪を装着している場合は、本機のタイヤ、爪を接地させてエンジンが水平になるようにします。(図 4-12)

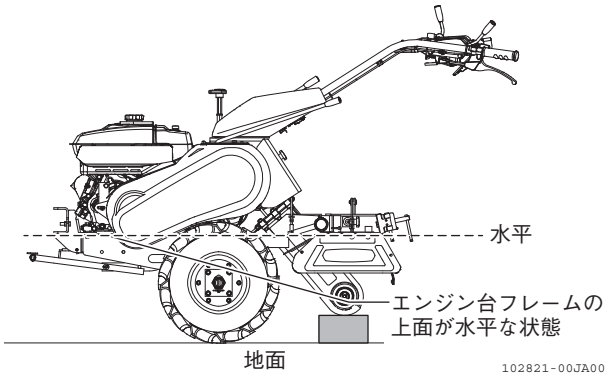


図 4-12 エンジン水平状態

2. 燃料タンク上面の燃料ゲージで、燃料の残量を調べます。(16ページ参照)
3. 燃料キャップを外し、燃料フィルターにゴミが詰まっていないか点検します。(図 4-13)
4. 不足している場合は、燃料の油面が燃料ストレーナー内側の赤印枠を超えないように補給します。この位置が規定量です。(図 4-13)

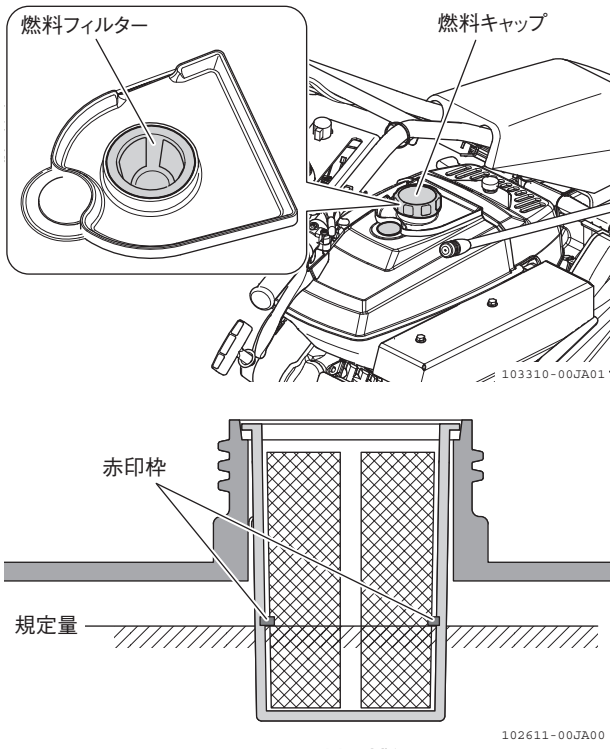


図 4-13 燃料の補給

5. 補給後は燃料キャップを確実に締め付けます。

[重要]

- 点検時に、燃料漏れのないことも確認してください。
- 自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）を使用してください。
  混合ガソリンや軽油・灯油、または粗悪なガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンの故障につながります。
- ガソリンは自然劣化します。ご購入後 1 カ月以上保管したガソリンは使用しないでください。
- 燃料を規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまで燃料を抜いてください。

燃料タンク内の燃料の抜きかた

1. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にします。
2. 燃料コシ器のリテーナリングを回して、燃料コシ器のカップを外します。（図 4-14）

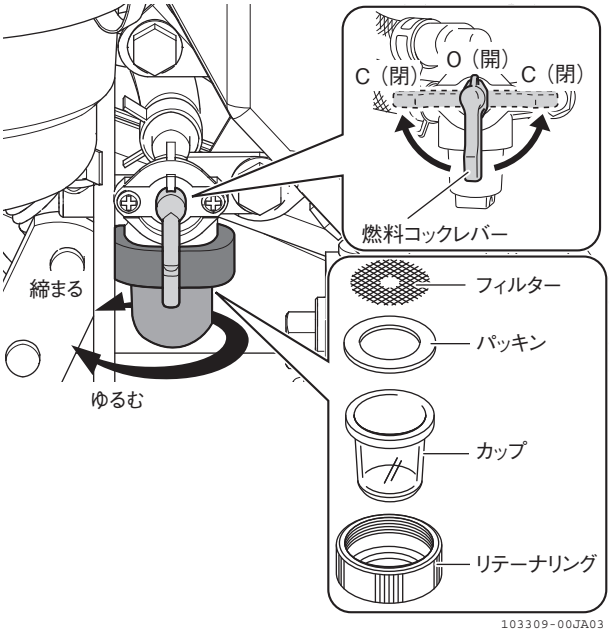


図 4-14 燃料コシ器（カップ）

3. 燃料コシ器の下に容器を置き、燃料コックレバーを「O（開）」位置にします。燃料タンク内の燃料が抜けます。
4. 燃料が全部抜けきったら、燃料コックレバーを「C（閉）」位置にし、燃料コシ器にカップを取り付けます。（40ページ参照）

キャブレター内の燃料の抜きかた

1. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にします。
2. ドレンホースの下に容器を置きます。
3. ワンタッチキャブドレンを引いて、キャブレター内の燃料を抜きます。（図 4-15）
4. 燃料が全部抜けきったら、ワンタッチキャブドレンを離します。（図 4-15）

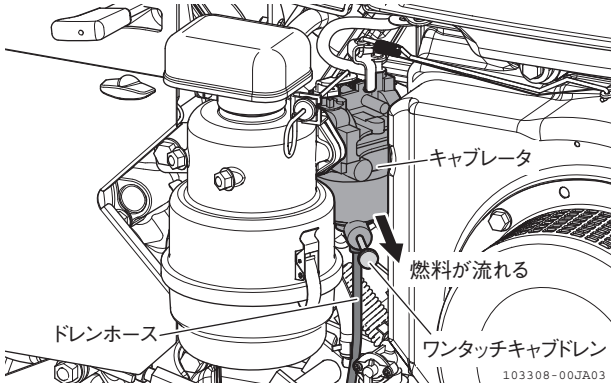


図 4-15 燃料の抜きかた

オイルの点検･交換のしかた

⚠ 注　意

オイルの点検・交換・補給でこぼれたオイルは必ずふき取ってください。滑って転倒し、けがをするおそれがあります。

[重要]

オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店またはJAへご相談ください。

エンジンオイル

表 4-2 エンジンオイルの規定量

規定量	1.0 L

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジンを水平な状態にしてから行ってください。
ロータリー爪を装着していない場合は、ハンドルを正位置にし、角材などを置いて、エンジンを水平な状態にしてから行ってください。（36ページ参照）

■ 点検のしかた

1. 給油口のふたを外して、先端の検油ゲージのエンジンオイルをきれいにふきます。(図 4-16)
2. 給油口のふたを給油口に差し込み（ねじ込まない)、もう一度抜き出します（図 4-16）

[重要]

エンジンオイルの量を確認するときは、給油口のふたをねじ込まずにいっぱいまで差し込んでください。

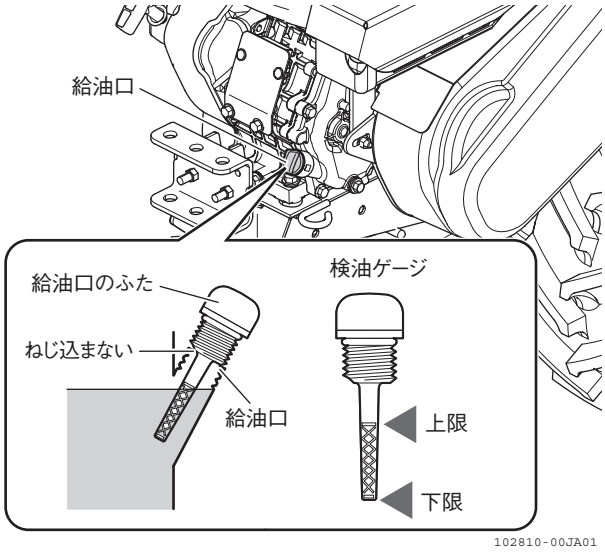


図 4-16 点検のしかた

3. エンジンオイルが検油ゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
4. 点検後、給油口にふたを取り付けます。

[参考]

点検時、エンジンオイル漏れのないことも確認してください。

■ 補給のしかた

エンジンオイルが不足している場合は、油面が検油ゲージの上限の位置になるまで、給油口から補給します。

[重要]

- 補給するエンジンオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

表 4-3 エンジンオイルの等級

エンジンオイル(ガソリンエンジン用)SE級以上
・夏季(20 ℃以上)…SAE30番
・春・秋季…… SAE20番
・冬季(10 ℃以下)…SAE10W-30番

- エンジンオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでエンジンオイルを抜いてください。

■ 交換のしかた

1. エンジン左下にあるドレンプラグの下に、古いエンジンオイルを受ける容器を置きます。
2. ドレンプラグを工具で外します。古いエンジンオイルが流れ出てきます。(図 4-17)

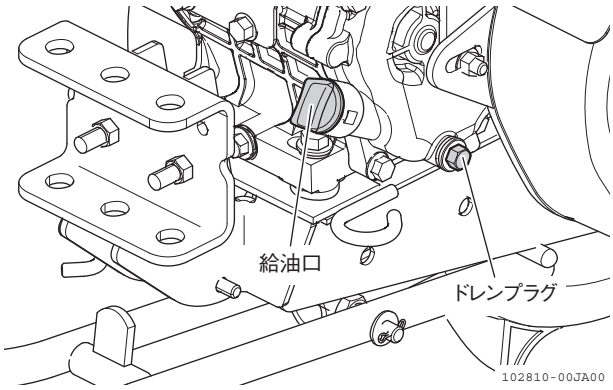


図 4-17 交換のしかた

[参考]

給油口のふたを外すと、エンジンオイルが抜けやすくなります。

3. 古いエンジンオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 給油口からエンジンオイルを規定量給油します。

[参考]

エンジンオイルが完全に抜けきらず、規定量給油できない場合があります。こぼれないように給油してください。

5. 給油口のふたを元通りに取り付けます。

走行ミッションオイル

表 4-4 ミッションオイルの規定量

規定量	5.3 L

ロータリー爪を装着していない場合は、ハンドルを正位置にし、角材などを置き、エンジンが水平になるようにします。
ロータリー爪を装着している場合は、本機のタイヤ、爪を接地させてエンジンが水平になるようにします。(36ページ参照)

■ 点検のしかた

1. 給油口のふたを外して、給油口の口元までミッションオイルがあることを確認します。
   給油口の口元までミッションオイルがあれば規定量です。(図 4-18)

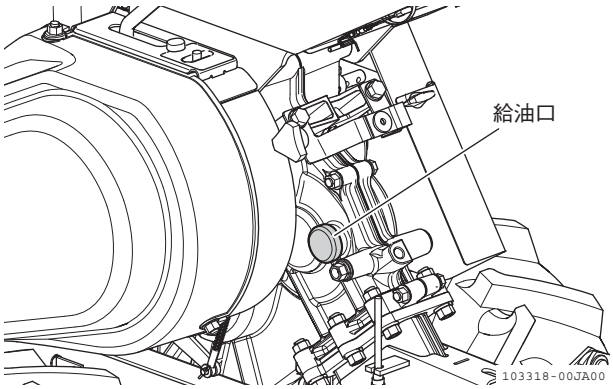


図 4-18 走行ミッションの給油口

[参考]
点検時にオイル漏れのないことも確認してください。

■ 補給のしかた

1. ミッションオイルが不足している場合は、給油口から給油口の口元まで補給します。

表 4-5 ミッションオイルの種類

ギヤオイル:GL-4級以上 SAE80W

[重要]
ミッションオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでミッションオイルを抜いてください。

■ 交換のしかた

1. 走行ミッションケース下部とロータリー軸にあるドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置きます。
2. ドレンプラグを工具で外します。
   古いミッションオイルが流れ出てきます。
   (図 4-19)

[参考]
- 給油口のふたを外すと、ミッションオイルが抜けやすくなります。
- 走行ミッションオイルが温かいうちに抜くと、容易に抜くことができます。(図 4-19)

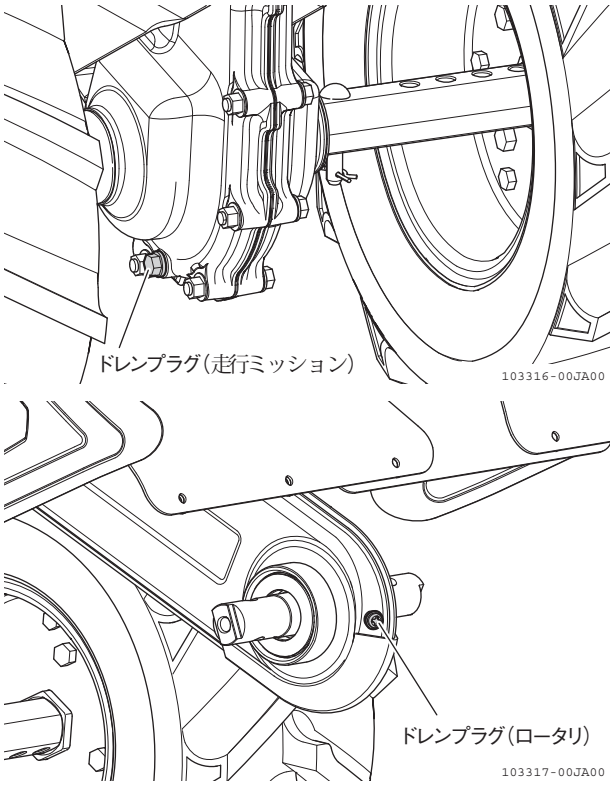


図 4-19 交換のしかた(ドレンプラグ)

3. 古いミッションオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 給油口からミッションオイルを規定量給油します。
5. 給油口のふたを元通りに取り付けます。
(39ページ参照)

[参考]
ミッションオイルが完全に抜けきらず、規定量給油できない場合があります。こぼれないように給油してください。

エアクリーナーの洗浄のしかた

⚠ 警 告

エアクリーナーエレメントの掃除は運転前に行ってください。運転直後は掃除をしないでください。パッチン錠などが高温になって、ヤケドをするおそれがあります。

エアクリーナーが汚れたままで使用すると、エンジンの出力低下や、故障の原因になります。つぎの要領で、エアクリーナーを定期的に洗浄してください。

1. オイルだまりを固定しているパッチン錠を解除して、オイルだまりを外します。(図 4-20)
2. エレメントのスポンジ部を外し、灯油で洗って乾燥させます。
3. スポンジ部はエンジンオイルに浸し、硬くしぼってから取り付けます。

[重要]
エレメントの外装部品は、灯油で洗浄しないでください。

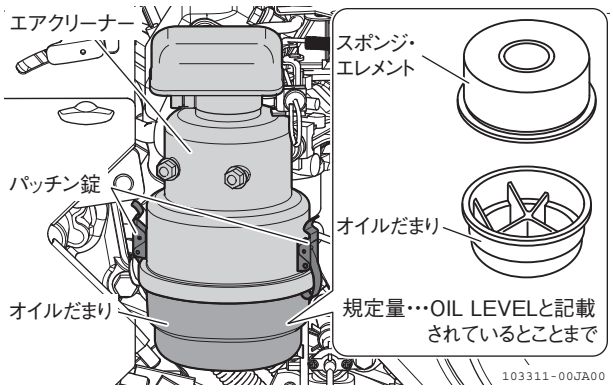


図 4-20 エアクリーナー

4. オイルだまりはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れます。
(ガソリンエンジン用オイルSE級以上)
5. スポンジ・エレメントをエアクリーナーへ入れ、オイルだまりを元通りに取り付けます。
(図 4-20)

燃料コシ器エレメントの掃除のしかた

⚠ 警 告

- **燃料コシ器エレメントの取り付け後、漏れがないか点検してください。**
- **ガソリンが周りに付着した場合、きれいにふき取り、完全に乾かしてからエンジンを始動してください。**

燃料コシ器エレメントは、燃料内の小さなゴミをこし取るものです。つぎの要領で、定期的に掃除してください。

1. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。(図 4-21)
2. 燃料コシ器のリテーナリングを回して、燃料コシ器のカップを外します。(図 4-21)
3. 燃料コシ器内の水やゴミを取り除き、フィルターネットの目詰まりなどを灯油で掃除します。
4. フィルター、パッキン、カップ、リテーナリングの順に元通りに取り付けます。(図 4-21)

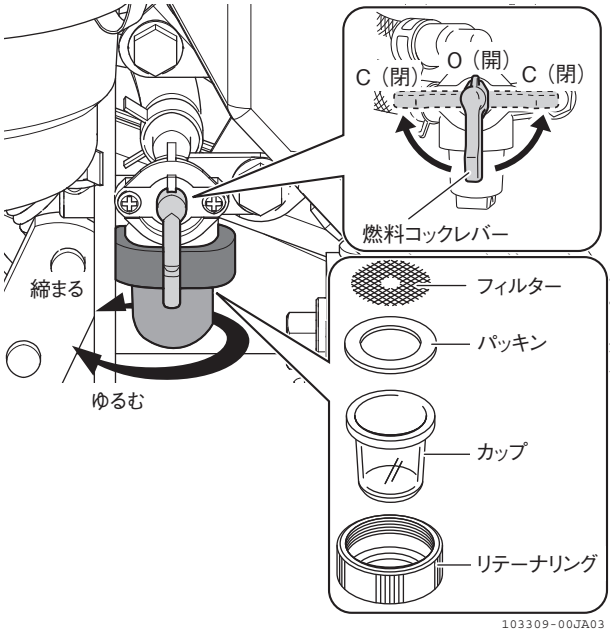


図 4-21 燃料コシ器エレメント

[参考]

フィルター、パッキンは、燃料コシ器の上部に入っています。

主クラッチレバーの点検･調整のしかた

主クラッチは「高」「低」があるので、ベルト・ワイヤー・アジャスタはそれぞれあります。

■ 点検のしかた

1. ベルトカバーを外します。(図 4-22)

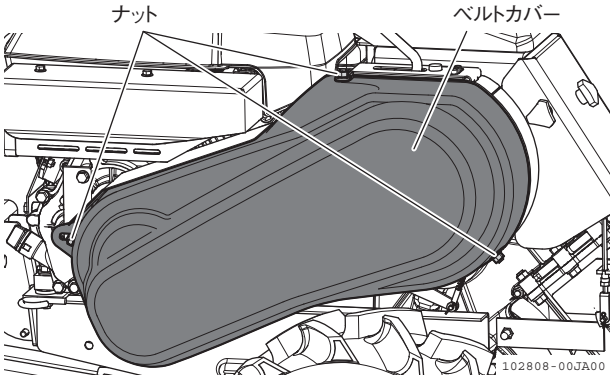


図 4-22 ベルトカバー

2. 主クラッチレバーの「入」「切」が確実に行われていることを確認します。(11ページ参照)
3. 主クラッチレバーを「切」位置にして、主変速レバーを「N（中立)」位置にして、主軸プーリが手で軽く回り、ベルトと主軸プーリの連れ回りがないことを確認します。(図 4-23)

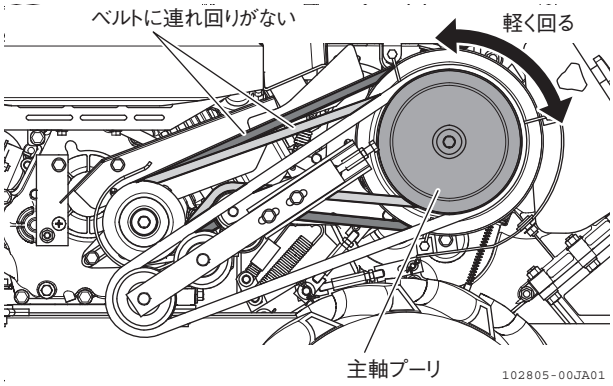


図 4-23 点検のしかた

4. 主クラッチ切レバーを押して、主クラッチレバーが「切」位置になることを確認します。
(12ページ参照)

■ 調整のしかた

1. ベルトカバーを外します。(図 4-22)
2. 主クラッチレバーを「入」位置にします。
3. 主クラッチワイヤーを調整します。(図 4-24)

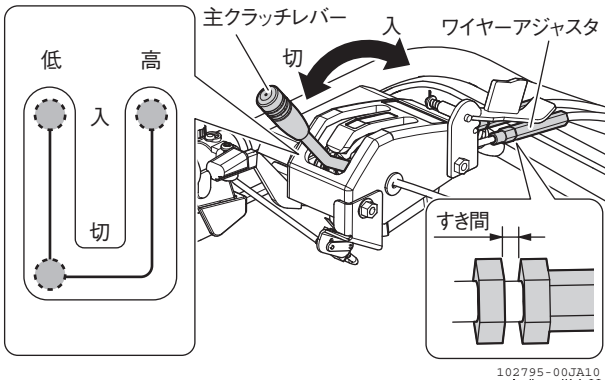


図 4-24 主クラッチレバーのワイヤーアジャスタ

・たわみ小…すき間をせばめます。
・たわみ大…すき間を広げます。

4. ベルト中央部を指で押したときのたわみが約 10～15 mmになるように調整します。(図 4-25)

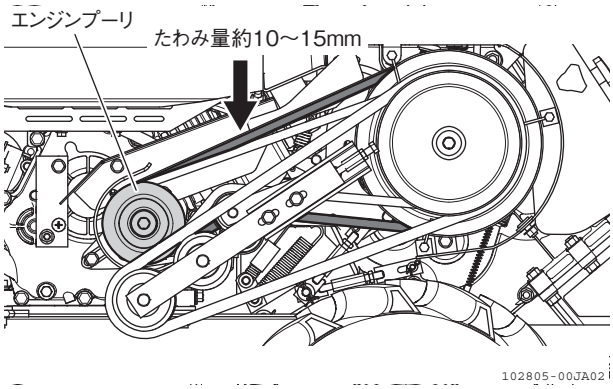


図 4-25 調整のしかた

5. 点検・調整後は、ベルトカバーを元通りに取り付けます。

[参考]

調整してもベルトの連れ回りが発生する場合は、ベルトの交換時期です。ベルトを交換してください。

ベルトガイドの点検･調整のしかた

⚠ 注　意

ベルトが浮き上がるように必ず調整してください。ベルトが浮き上がらないと、ベルトの連れ回りが起こってベルトの連れ回りが発生し、クラッチが完全に切れず、本機が完全に停止しないためけがをするおそれがあります。

■ 点検のしかた

1. 主クラッチレバーを「切」位置にします。
2. ベルトカバーを外します。(41ページ参照)
3. ベルトガイドがベルトを軽く押さえ、Vプーリの溝から必ず浮き上がるように調整します。(図 4-26)

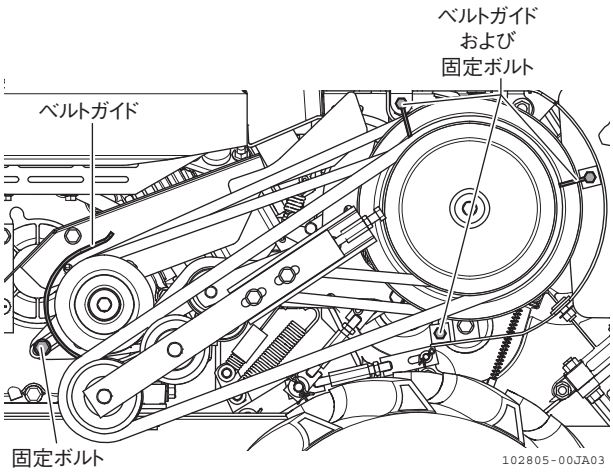


図 4-26 ベルト押さえ

■ 調整後の確認のしかた

走行変速レバーを「中立」位置にし、エンジンを始動します。主クラッチレバー「切」位置でベルトが完全に静止すれば調整完了です。

サイドクラッチレバーの点検･調整のしかた

サイドクラッチレバーを握らずにハンドルを左右に振って、タイヤが固定された位置で行います。
サイドクラッチレバーの点検･調整は、左右共に行います。

■ 点検のしかた

1. サイドクラッチレバーを「入」位置にします。
2. ワイヤーの遊び量がそれぞれ1～2mmあるか確認します。(左右とも)(図 4-27)

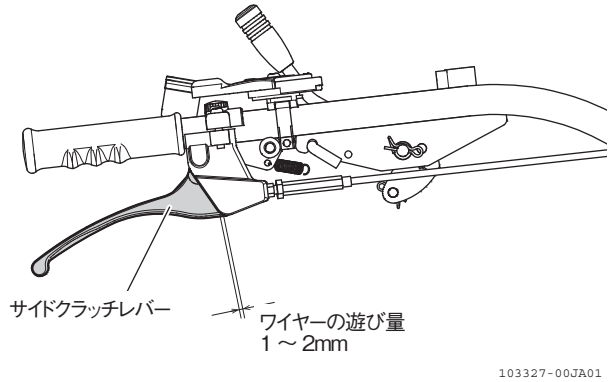


図 4-27 サイドクラッチレバー遊び量

3. サイドクラッチレバーを握った状態で本機が手押しで旋回できることを確認します。

■ 調整のしかた

1. サイドクラッチワイヤーの遊び量がそれぞれ 1～2mmになるようにワイヤーアジャスタを回して調整します。(図 4-28)
2. 調整後に、確実にサイドクラッチが切れることを確認します。

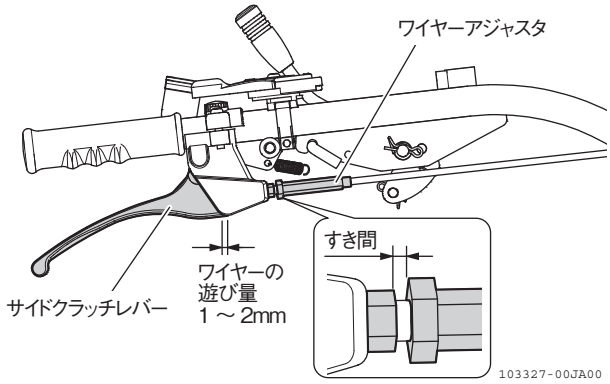


図 4-28 サイドクラッチワイヤーアジャスタ

・遊び量が広い…すき間を広げます。
・遊び量が狭い…すき間をせばめます。

[重要]

- **調整後は、サイドクラッチレバーが確実に作動することを確認してください。**
- **ハンドルを回動して、ハンドル正位置、逆位置のどちらでも正常に作動することを確認してください。**

ハンドル上下調節レバーの点検･調整のしかた

■ 点検のしかた

1. ハンドル上下調節レバーを押さない状態でレバー高さがハンドルグリップ上端にあることを確認します。(図 4-29)

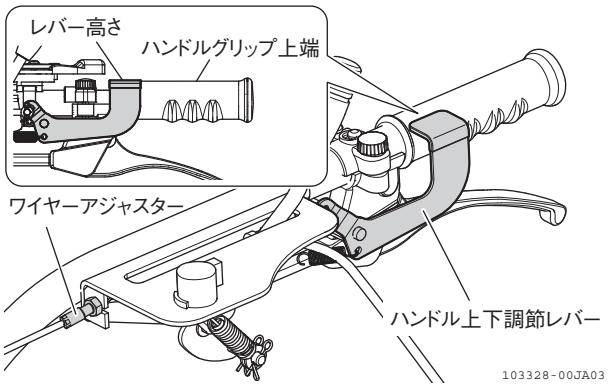


図 4-29 ハンドル上下調節レバーの遊び量

■ 調整のしかた

1. ハンドル上下調節レバーを押さない状態でレバー高さがハンドルグリップ上端になるように調整します。(図 4-30)

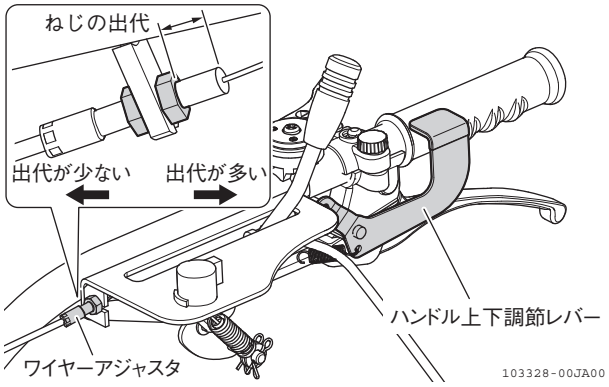


図 4-30 ハンドル上下調節レバーワイヤーアジャスタ

- レバー高さ低い…出代を多くします。
- レバー高さ高い…出代を少なくします。

[重要]
調整後は、レバーを押してハンドルが上下することを確認してください。

かるがるリフトベルトの点検･調整のしかた

■ 点検のしかた

1. 主クラッチレバーを「切」位置にします。
2. ベルトカバーを外します。(41ページ参照)
3. ベルトを軽く押さえ、たわみ量が20～25mmあることを確認します。

■ 調整のしかた

1. 固定ボルトをゆるめ､調整ボルトで両面ベルトをはります。(図 4-31)

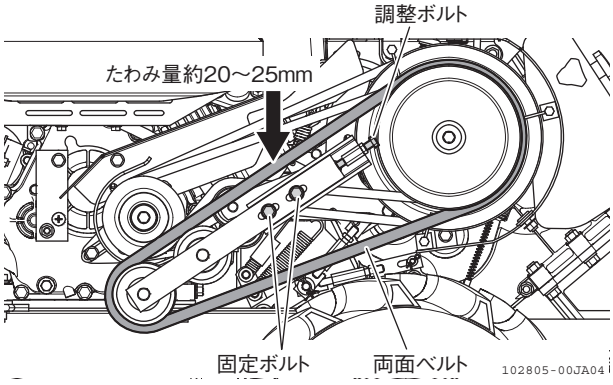


図 4-31 かるがるリフトベルト

2. 張り強さは、ベルト中央部を指で押さえ、たわみ量が20～25mmになるように調整します。

緊急停止ワイヤーの点検･調整のしかた

■ 点検のしかた

1. 緊急停止ワイヤーを前後上下どの方向に動かしても主クラッチが切れることを確認します。(12ページ参照)

■ 調整のしかた

1. ワイヤーの中央部を動かしたとき、確実に主クラッチが切れるように、緊急停止ワイヤーのアジャスタで調整します。(図 4-32)

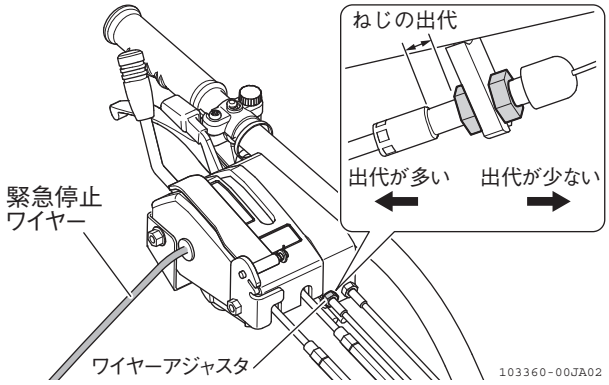


図 4-32 緊急停止ワイヤーアジャスタ

[重要]

調整後は、緊急停止ワイヤーを動かし、主クラッチが切れることを確認してください。

駐車ブレーキレバーの点検のしかた

■ 点検のしかた

1. 平たんで安定した場所で、走行変速レバーを「N(中立)」位置にします。
2. 駐車ブレーキレバーを「入」位置にします。
3. 本機を前後に押して、車輪が回らないことを確認します。このとき、サイドクラッチレバーは握らないでください。

[重要]

駐車ブレーキレバーを「入」位置にしても本機が動く場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA にご相談ください。

クイックうね立てレバーの点検･調整のしかた

ロータリーカバーロックワイヤーの点検･調整のしかた

■ 点検のしかた

1. クイックうね立てレバー「切」位置で、遊び量が1～3mmあることを確認します。(図 4-33)

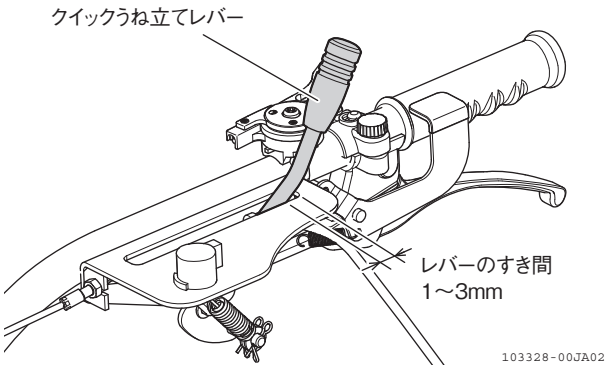


図 4-33 クイックうね立てレバー「切」位置の遊び量

2. クイックうね立てレバーを「入」位置にしたときに、ロータリーカバーのロックが解除され可動できることを確認します。
3. クイックうね立てレバー「切」位置で、ロータリーカバーの可動がロックされること、「入」位置で解除され上に可動することを確認します。

■ 調整のしかた

1. クイックうね立てレバーを「切」位置で、遊び量が1～3mmになるようにワイヤーアジャスタ(左側)で調整します。(図 4-34)

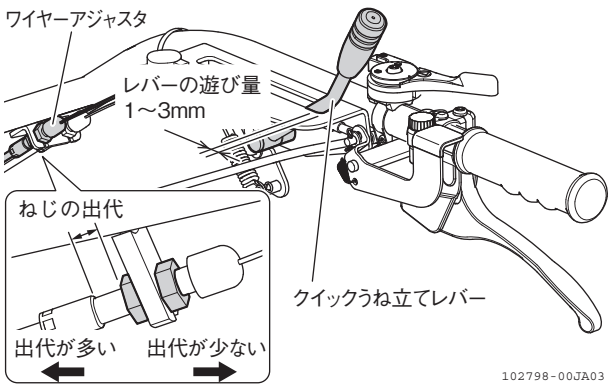


図 4-34 クイックうね立てレバー「切」ワイヤーアジャスタ

[重要]

クイックうね立てレバーを「切」位置にしてもうね立て機が動く場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

ロータリーカバー切ワイヤーの点検・調節のしかた

■ 点検のしかた

1. ロータリーカバーが固定されている状態で、クイックうね立てレバーを「入」位置で、1〜3mmあることを確認します。(図 4-35)

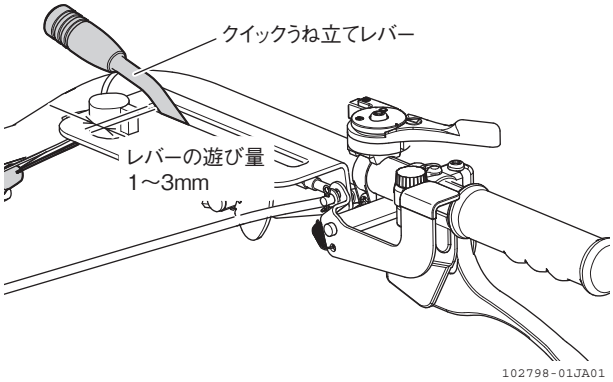


図 4-35 クイックうね立てレバー「入」位置の遊び量

2. ロータリーカバーを持ち上げるとクイックうね立てレバーが「切」位置に戻ることを確認します。

■ 調整のしかた

1. ロータリーカバーが固定されている状態で、クイックうね立てレバーを「入」位置で、1〜3mmになるようにワイヤーアジャスタ（右側）で調整します。(図 4-35)

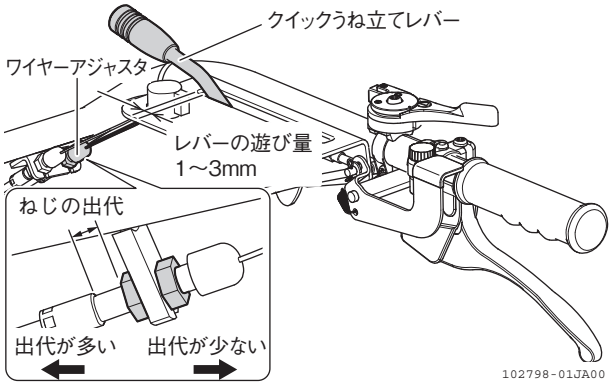


図 4-36 クイックうね立てレバー「入」ワイヤーアジャスタ

[重要]

クイックうね立てレバーを「入」位置にしてもうね立て機が動かない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

クイックうね立て規制ボルトの調整のしかた

■ 調整のしかた

1. ロータリーフレームの規制ボルトを回して作業に適した回動角度に調整します。

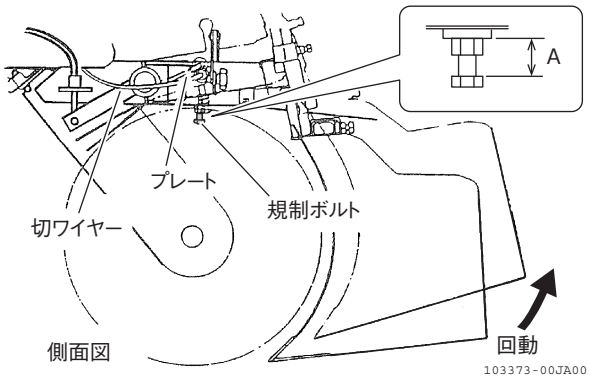


図 4-37 ロータリーフレームの規制ボルト

・回動角が大きく、ダッシュする場合
…A寸法をせばめます。
・回動角が小さく、ロータリーが潜らない場合
…A寸法を広げます。

[重要]

規制ボルトを調整した場合、ロータリーカバー切ワイヤーがゆるんだり張ったりするため、「ロータリーカバー切ワイヤーの 点検・調節のしかた」の調節のしかたを確認し、調節してください。ワイヤーがゆるんでる場合は、レバーが「切」位置に戻りにくくなります。ワイヤーが張っている場合は、レバーを「入」位置に入れても「切」位置に戻る場合があります。

増締めするところ

■ エンジンフレーム取付ボルト（3カ所）

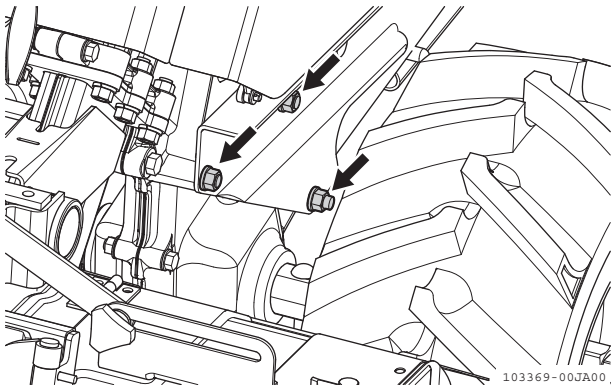


図 4-38 エンジンフレーム取付ボルト

■ エンジン取付ボルト

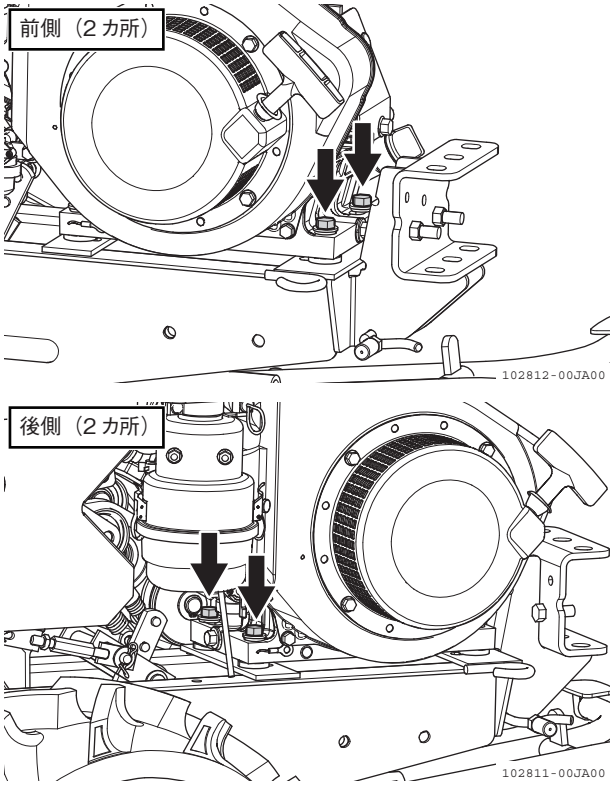


図 4-39 エンジン取付ボルト

■ 耕うんフレーム取付ボルト（7カ所）

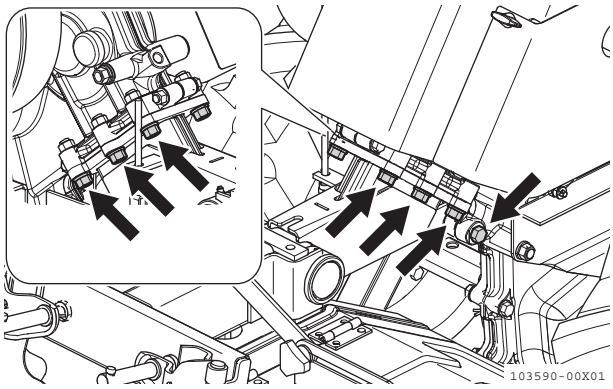


図 4-40 耕うんフレーム取付ボルト

点火プラグの点検･掃除･交換のしかた

⚠ 警 告

点火プラグの点検･掃除･交換は、運転前に行ってください。運転直後は点検･掃除･交換をしないでください。高温部でヤケドをするおそれがあります。

電極部がすすで黒ずんでいたり、損耗または破損している点火プラグを使用すると、エンジンの不調や排ガス不良になります。
定期的に点火プラグの点検・掃除をしてください。

■ 点検のしかた

1. リヤカバー（ノブボルト）を外します。(図 4-41)

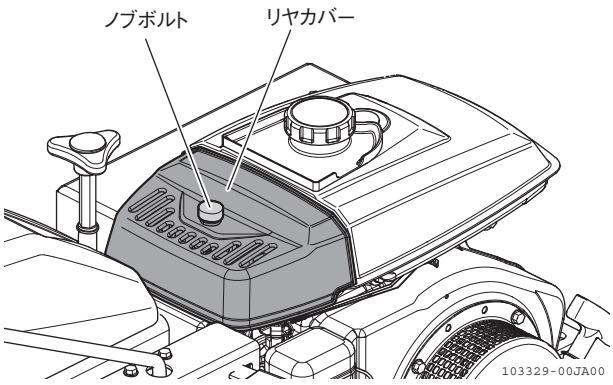


図 4-41 リヤカバー

2. プラグコードを外します。(図 4-42)

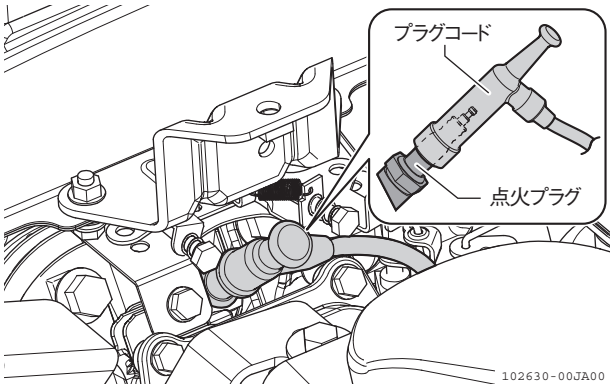


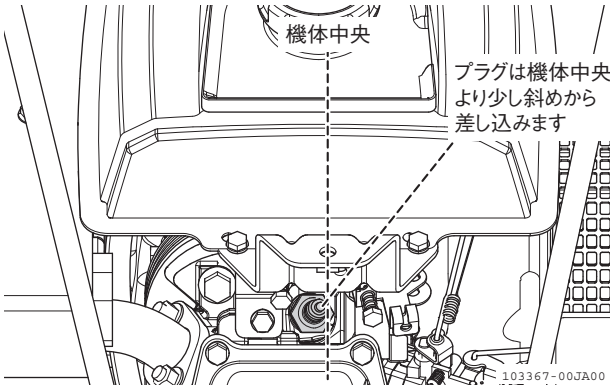
図 4-42 点火プラグ・プラグコード

3. 付属のプラグレンチを使用して点火プラグをエンジンから外します。プラグレンチはお手持ちのドライバーなどと合わせてご使用ください。(図 4-43)
4. 点火プラグの電極部の焼け具合、損耗の程度を点検します。
5. 火花ギャップ（電極すき間）を0.7 mmに調整します。(図 4-44)

6. 点火プラグを元通りに取り付け、プラグコードを確実に差し込みます。
7. リヤカバーを元通りに取り付けます。

[重要]

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。(図 4-43)



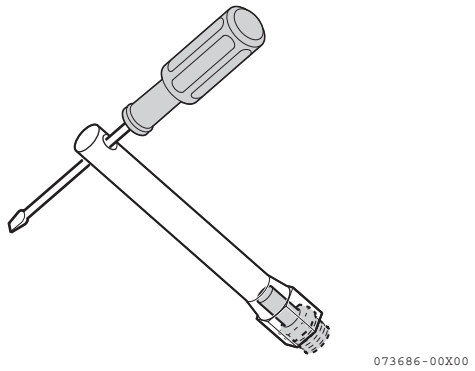


図 4-43 プラグレンチとドライバー

■ 掃除のしかた

電極部をブラシなどで掃除します。

■ 交換のしかた

電極部が損耗または、破損したものは新品と交換します。点検のしかたの要領で点火プラグを外し、交換してください。(図 4-42、図 4-44)

標準点火プラグ	NGK製(BP5ES)

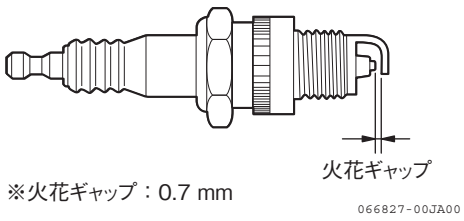


図 4-44 火花ギャップ

タイヤの空気圧の調整のしかた

⚠ 注 意

タイヤの空気圧の入れすぎや、過度に少ない場合、タイヤが破裂して思わぬけがをするおそれがあります。

左右のタイヤの空気圧を調整します。
左右のタイヤの空気圧が均等になっていないと、運転中にハンドルを取られることがあります。

表 4-6 タイヤの空気圧

240 kPa (2.4 kgf/cm^2)

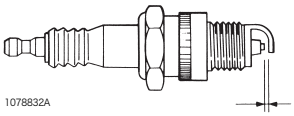
燃料パイプ・電気配線の点検のしかた

⚠ 注 意

ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2 年ごとに交換してください。守らないと、燃料が漏れて火災が起こり、ヤケドを負うおそれがあります。

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料漏れがないことを確認します。
また、電気配線が他の部品に接触して、被覆のはがれや傷がないこと、接続部のゆるみがないことを点検します。
燃料パイプや電気配線が傷んでいる場合は、お買い上げいただいた特販店またはJAなどで修理してください。傷んでいなくても、2年ごとに交換するようにしてください。

不調診断のしかた

状　　況	この確認をしてください	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない場合	燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を補給してください。	36
	エンジンの始動手順が間違っていませんか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	20
	燃料コックレバーが「C(閉)」位置になっていませんか。	燃料コックレバーを「O(開)」位置にしてください。	20
	燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水がたまっていれば、燃料コシ器を外して、水抜きをしてください。	40
	ご購入後 1 カ月以上経過したガソリンを使用していませんか。	燃料タンク、キャブレター内のガソリンを抜き、新しいガソリンを補給してください。	36
	点火プラグが悪くなっていませんか。  1078832A NGK製(BP5ES)　火花ギャップ	点火プラグを外して、火であぶるか、かわいた布でよく乾燥させてください。	46
		点火プラグの火花ギャップを調節してください。または、新しい点火プラグと交換してください。それでも始動しない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	
	各リード線が外れていませんか。	コネクタ、リード線の接続を点検してください。	–
各部に振動が多い場合	エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ボルト、およびエンジンフレーム取付ボルトを強く、締め直してください。	45
エンジンの力がない場合	エアクリーナーにゴミが詰まっていませんか。	エレメントを外し、きれいに掃除するか交換してください。	40
	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、古くなっている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。	37
	ベルトが張りすぎていませんか。	適正な張りに調整してください。	41
	エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバー取付位置が動いていたら、元の位置に確実に固定してください。それでもエンジン回転が上がらない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。	–
	エンジンの圧縮がないのではありませんか。	点火プラグを締めてください。それでも改善しない場合は、ピストンリングなどの摩耗が考えられます。お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。	46
主クラッチレバーを「入」位置にしても走行しない場合	ベルトが伸びて、スリップしていませんか。	ベルトの張りを確認してください。	41
	主クラッチレバーのワイヤーがゆるんでいませんか。	ワイヤーの調節をしてください。	41
主クラッチレバーが入らない	駐車ブレーキが入っていませんか。	駐車ブレーキを「切」位置にしてください。	15
サイドクラッチレバーを切っても、左右のタイヤが常に同じ回転をする場合(旋回しにくい)	サイドクラッチレバーのワイヤーがゆるんでいませんか。	ワイヤーの調節をしてください。	42

状　　況	この確認をしてください	処　　置	参照ページ
かるがるリフトペダルを踏んでもロータリーが浮き上がらない	ベルトが伸びていませんか。	ベルトの張りを調節してください。	43
駐車ブレーキが入らない	主クラッチが「入」位置にありませんか。	主クラッチレバーを「切」位置にしてください。	11

保管するときは

⚠ 注　意

- 本機を高いところに保管しないでください。また、ハンドル部を利用して本機を吊り下げての保管もしないでください。
  落下するおそれのある保管方法は絶対にしないでください。
- 格納（保管）は、本機が倒れたり動いたりしない平たんで安定した場所に格納してください。
- 本機にシートカバーをして保管する場合は、耕うん爪などの突起物でけがをしないように、壁など人が近づかない方向に向けて保管してください。
- エンジンが高温のときは、本体カバーをかけないでください。エンジンが冷えたことを確認してからかけてください。火災の原因になります。

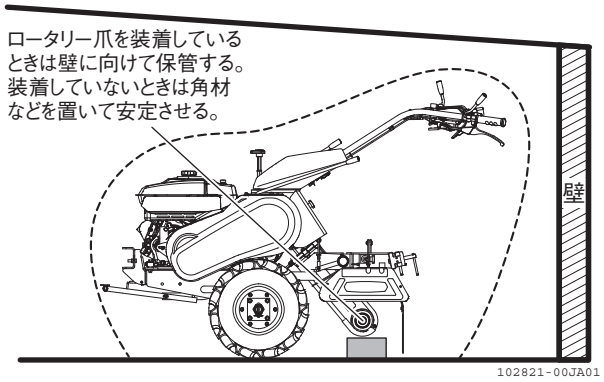


図 5-1 保管方法

本機は、直射日光や雨水のあたらない、風通りのよい屋内で保管します。雨水などがエアクリーナーやキャブレターにかかると、エンジンの故障などにつながります。

特に長期保管するときは（1カ月以上）

[重要]

- 1 カ月以上使用しない場合は、必ず燃料タンク、キャブレター、燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ってください。
  抜き取らないと、エンジン不調の原因になります。（37ページ参照）
- 長期保管のときは、車輪の下に木台を敷いてください。

保管のしかた

エンジンの手入れ

1. 点火プラグを外します。
   （46 ページの「点火プラグの点検・掃除・交換のしかた」を参照してください。）
2. プラグの取り付いていた穴からガソリンエンジン用のエンジンオイルを約2〜3 cc入れます。
3. 点火プラグを外すときの逆の手順で取り付けます。

[重要]

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。

4. リコイルスタータを軽く引いて、重たくなったところ（圧縮位置）で止めます。
5. リヤカバーを外すときの逆の手順で取り付けます。

燃料の抜き取り

燃料タンク・キャブレター・燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ります。
作業方法は、36 ページの「燃料の点検・補給のしかた」を参照ください。

トラックへの積み･降ろしのしかた

⚠ 警　告

ロープなどを使って人力で荷台へ引き上げたり、人力で持ち上げたりしないでください。落下により傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

トラックでの運搬時は燃料タンク内のガソリンの量を、積み･降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは別に用意しておいた、法で定められたタンクに移して運搬してください。

[参考]

トラックへの積み・降ろしのしかたは、同梱の「安全に作業をするために」の記載内容をお読みになり、注意事項を守ってください。

トラックの荷台へロープで固定する場合は、ロータリー側ロープフックとエンジン側フレーム両側のロープフックにロープをかけてください。
(図 6-1、図 6-2)

■ ロータリー側ロープフック

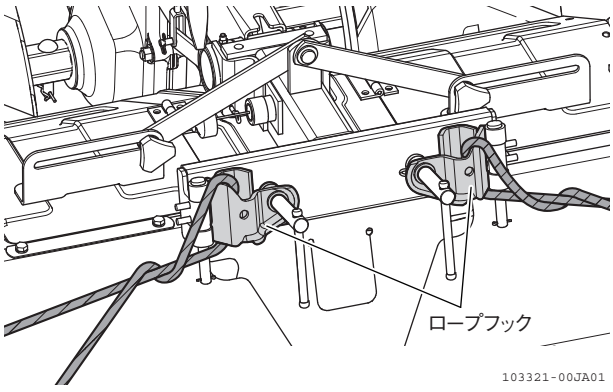


図 6-1 ロープ固定（ロータリー側）

■ エンジン側ロープフック

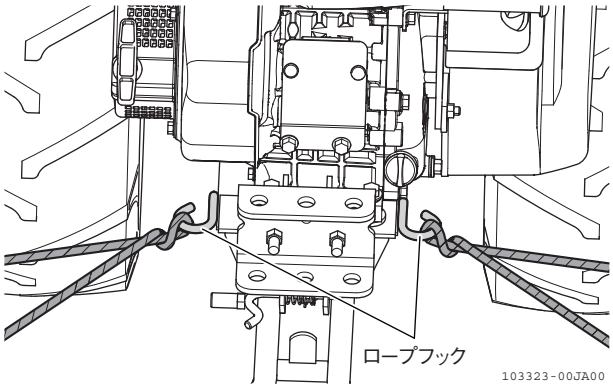


図 6-2 ロープ固定（エンジン側）

[重要]

- 作業機を取り付けている場合は、タイヤ、爪を接地状態にして、ロープをかけてください。
- 輸送時は、燃料コックレバーを「C（閉)」の位置にしてください。エンジンの故障の原因になります。

主要諸元

名　称						三菱うね立て専用機
販売型式名						MM116B
機体寸法	全　長				(mm)	1700
	全　幅				(mm)	860
	全　高				(mm)	1110
	輪　距				(mm)	306～656(296～722)
機体質量					(kg)	154
エンジン	型式名					GB300
	種　類					空冷4サイクルOHVガソリンエンジン
	総排気量				(L{cc})	0.296{296}
	定格出力/回転速度				(kW{PS}/rpm)	5.6{7.6}/1800
	最大出力				(kW{PS})	7.7{10.5}
	使用燃料					自動車用無鉛ガソリン(レギュラーガソリン)
	燃料タンク容量				(L)	5.4
	エアクリーナー形式					オイルバス
	始動方式					リコイルスタータ式
走行部	走行速度(km/h)	主変速	変速段数	副変速段数	主クラッチ	—
		ハンドル逆位置前進(F)	1	1	低	1.76
			2	2	低	2.41
			3	1	高	2.49
			4	2	高	3.40
			5	3	低	4.09
			6	3	高	5.67
		ハンドル逆位置後進(R)	1	1	低	0.94
			2	2	低	1.28
			3	1	高	1.30
			4	2	高	1.78
		ハンドル正位置前進(F)	1	1	低	0.94
			2	2	低	1.28
			3	3	低	2.17
		ハンドル正位置後進(R)	1	1	低	1.76
	車　輪					タイヤ 17×8.00-8
	主クラッチ	形式				ベルトテンション式
	サイドクラッチ	形式				ボール式
変速	走行変速段数	主変速			(段)	F1、R1×2(主クラッチ高低)
		副変速			(段)	3
		ハンドル正位置時			(段)	F3、R1
		ハンドル逆位置時			(段)	F6、R4
	耕うん変速段数	変速			(段)	2速×2(主クラッチ高低)
		ハンドル正位置時			(段)	2
		ハンドル逆位置時			(段)	4

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

8章　廃棄物の処理について

廃棄をするときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。この本機に使用されている、燃料・オイル・フィルター・ベルト・ホースなどは、正しく処分してください。

本機の廃棄

[重要]

本機を廃棄するときは、お買い上げいただいた特販店または JA、もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。法律に違反する行為は絶対にしないでください。詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

廃油の処理

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。
廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご相談ください。

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせず、お買い上げいただいた特販店またはJAへお渡しください。資源としてリサイクルされます。

9章　サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要になるものです。お読みになったあとは、大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

うね立て専用機の調子が悪いときは、48 ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してください。それでもなお不具合があるときは、つぎの「ご連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご連絡ください。

ご連絡していただきたい内容

- 販売型式名と製造番号
- エンジンの場合は、エンジンの番号
- ご使用状況は？
  （車速やどんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお伝えください。

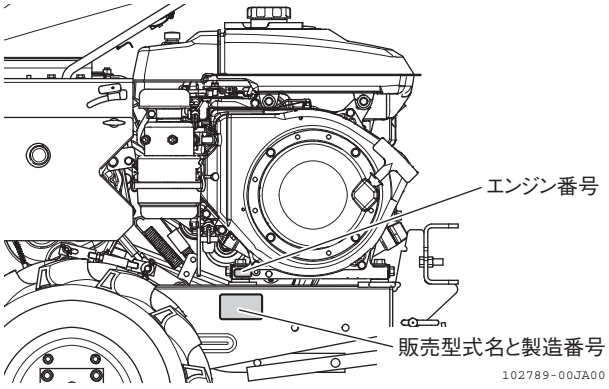


図 9-1 機体銘板とエンジン番号

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については、納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品･オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、厳しい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。
部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルをご指定ください。



図 9-2 純正部品・純正オイル

改造について

改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

10章 索引

英数字

PTO 軸 30
PTO 軸キャップ 17

あ

アクセルレバー 11

え

エアクリーナー 17, 40
エレメント 40
エンジンオイル 37
エンジンスイッチ 11
エンジン番号 1

か

かるがるリフトペダル 17

き

機体銘板 1
緊急停止ワイヤー 12

く

クイックうね立てレバー 12

け

検油ゲージ 38
検油口 39

こ

耕うん変速レバー 14

さ

サイドカバー 31
サイドクラッチレバー 12

し

主クラッチ 11
主クラッチ切レバー 12
主クラッチレバー 11
主クラッチレバー規制プレート 11

そ

走行変速レバー 13

ち

駐車ブレーキレバー 15
チョークレバー 16

て

点火プラグ 46, 47

と

ドレンプラグ 38, 39

ね

燃料キャップ 36
燃料ゲージ 16
燃料コシ器 40
燃料コックレバー 16

は

バッテリー充電端子 18
ハンドル上下調節レバー 13
ハンドルノブ 15

ひ

火花ギャップ 46

ふ

フロントヒッチ 30

へ

ベルトカバー 41

み

ミッションオイル 39

り

リコイルスタータ 16

ろ

ロータリーカバー 31
ロープフック 51

わ

ワンタッチキャブドレン 17, 37

11章 部品リスト(部品早見表)

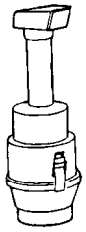
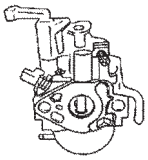
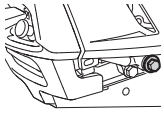
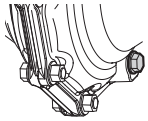
主要消耗部品

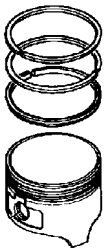
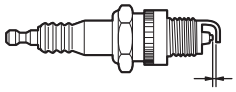
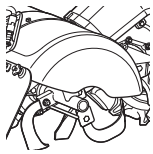
表 11-1 主要消耗部品

No.	品名	コード	備考
1	点火プラグ(BP5ES)	NGK-BP5ES	
2	Vベルトローエッジコグ(低速) SC50 HPIV	91570000010	
3	Vベルトローエッジコグ(高速) SC46 HPIV	91570000020	
4	両面ベルト(リフトペダル) BB48	91570000030	
5	車軸オイルシール	91690000920	
6	耕うん軸オイルシール	91690000910	
7	主軸オイルシール	26700002300	
8	変速ホーク軸オイルシール	91800000030	
9	ハンドル上下ワイヤー	91750002400	
10	ロータリーリターンワイヤー	91750002420	
11	主クラッチワイヤー	91750000060	
12	主クラッチ切ワイヤー	91750002450	
13	緊急停止ワイヤー	91750002460	
14	アクセルワイヤー	91690000230	

12章 用語解説

本書の中で使われている用語の解説です。

用語	解説	参照ページ
エレメント 	エアクリーナーの構成部品の1つ。 空気の通り道にあり、吸気からチリやホコリを取り除きます。 エレメントで取り除かれたチリやホコリは、オイルだまりに落ちます。 耕うん機を長時間使用すると汚れがたまりますので、定期的に洗浄してください。	40
オイルバス式 エアクリーナー 	燃焼・爆発するために吸引される空気をきれいにするエアクリーナーの1種。 エアクリーナーの下側にエンジンオイルをため、エアクリーナー内の複雑な吸気の経路を通る途中で落ちるチリやホコリをエンジンオイルの粘性で吸着沈殿させます。 長時間使用すると、エンジンオイルの中に沈殿物がたまるので、定期的にエンジンオイルを交換してください。	17、40他
キャブレター 	エンジンの燃料(ガソリン)を気化する部品のこと。	17、37他
コネクタ	配線と電気部品をつなぐカプラのこと。 多くはプラスティック製です。	48
摺動部	互いにこすれながら滑り合う部分のこと。 動力伝達でのギヤスライド、変速操作での変速アームやワイヤーの動きなど本機には多くの摺動部があります。 摺動部には、オイルやグリスによる潤滑が必要で、潤滑不足になるとオペレータの操作がうまく伝わらなくなります。	32
ドレン(ホース) キャブドレン ドレンプラグ   	長期保管時には燃料を抜き取る必要があります。 燃料を抜く場所がドレンです。 潤滑油などを交換する場合は、潤滑油のドレン部からオイルを抜き取り、ドレンプラグ(栓)を取り付けてから新しいオイルを補給します。	17、37、38、39
ハンチング	エンジン回転が不安定になること。	21

用語	解説	参照ページ
ピストンリング 	エンジンのピストン部に装着されている金属製のリング（輪）です。 ピストンリングは爆発漏れを防ぐ、エンジンシリンダ内の潤滑など、エンジンがスムーズに動くために重要な役割を担っています。	48
火花ギャップ （電極すき間） 	ガソリンエンジンの爆発には、点火が必要です。この点火を起こす部品を点火プラグと言います。 プラグ先端が電極になっていて、このすき間を火花ギャップと言います。 適切なすき間（火花ギャップ）がないと、火花が飛ばず、エンジンは爆発しません。	47
ほ場	耕うんする畑のこと。	2
リード線	電気部品をつなぐコード（電気配線）のこと。	48
ロータリー 	耕うん作業をする部分のこと。 耕うん軸、耕うん爪、ロータリーカバーなどで構成されます。	3、29他